

調査レポート

# 学生の投資に対する意向調査

— 過去調査を元にした企業勤務者との比較 —

2021年4月

MUFG資産形成研究所

# 目次

1. 調査概要	.....	P.2
2. はじめに	.....	P.3
3. レポートサマリー	.....	P.4
4. 金融リテラシーと投資の状況	.....	P.5
5. 資産形成への関心と理解	.....	P.12
6. 資産形成に関する学習経験	.....	P.17
7. お金に関するアプリのインストール状況	.....	P.19
Appendix1、2、3	.....	P.21

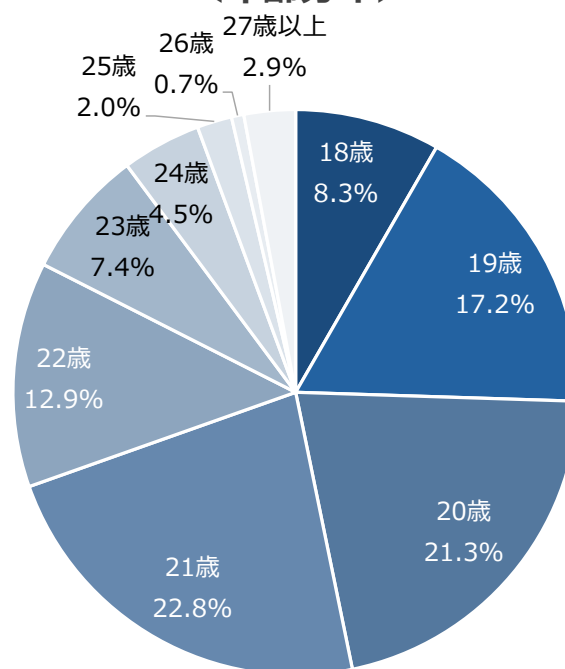
# 調査概要

- (1) 調査名： 学生の投資に対する意向調査
- (2) 調査方法： 非対面アンケート
- (3) 調査時期： 2020年8月
- (4) 調査対象： 18歳以上の大学生、大学院生、専門・専修学校生等
- (5) 本調査設問数： 29問

<男女・所属の分布>

	男性		女性		その他/未回答		全体	
大学	1,446	39.1%	1,384	37.4%	409	11.0%	3,239	87.5%
大学院	240	6.5%	114	3.1%	55	1.5%	409	11.0%
専門・専修学校生等	12	0.3%	35	0.9%	7	0.2%	54	1.5%
合計	1,698	45.9%	1,533	41.4%	471	12.7%	3,702	100.0%

<年齢分布>



(n = 3,262。440名は未回答)

## 学生の投資に対する意向調査と20代企業勤務者との比較について

- 三菱UFJフィナンシャル・グループ(MUFG)では、2020年5月14日、新型コロナウイルスの感染拡大により、活動自粛をはじめとする感染拡大防止措置の長期化に伴い、社会・経済に広範かつ甚大な影響が生じていることを受け、総額20億円の支援をすることを決定し<sup>\*1</sup>、その一環として、学生にアルバイトの場を提供することを目的に非対面アンケートを実施した。
- 本レポートでは、そのアンケート結果を元に、学生の投資の状況や意向を把握すると共に、当研究所が過去、企業勤務者に対して実施した調査結果と比較<sup>\*2</sup>することで、学生と企業勤務者(20代)の傾向の違いを紹介する。

\*1：詳細は2020年5月14日付のMUFGのニュースリリースをご参照([https://www.mufig.jp/dam/pressrelease/2020/pdf/news-20200514-001\\_ja.pdf](https://www.mufig.jp/dam/pressrelease/2020/pdf/news-20200514-001_ja.pdf))

### \*2：企業勤務者に対して実施した過去調査との比較について

本レポートで参照する過去調査は、2017年12月以降の調査である。今回の「学生の投資に対する意向調査」と同様の調査項目がある過去調査について、より直近の調査結果を元に比較しているが、調査期間の違いによる差がある可能性がある。本レポートにおける分析は、あくまでも金融リテラシーや投資の傾向を長期的な目線で捉えた場合のものであるとご理解いただければ幸いである。

# レポートサマリー

## 金融リテラシーと投資の状況

- 学生の金融リテラシーは企業勤務者と比較して低く、投資実施率も低い。〈7頁、10頁〉
- 投資を実施するまでのステップ\*で見ると、学生は、そもそも投資を「検討」する段階に至る人の割合が、企業勤務者と比較して低い傾向が確認できる。〈10頁〉

## 資産形成への関心と理解

- 資産形成への関心は、学生と企業勤務者とで大きな差は見られない。〈13頁〉
- 一方、分散投資の効果や、NISAやDC等の制度に関する学生の理解度は、企業勤務者と比較して低い傾向。〈14頁、15頁〉

## 資産形成に関する学習経験

- 男子学生は、自らウェブや書籍等で学習する人の割合が企業勤務者よりも高い。また、男女とも「知人等に教えてもらった」人の割合が企業勤務者よりも高い傾向が見られる。〈18頁〉

## お金に関するアプリのインストール状況

- 学生の過半数は、インターネットバンキングや決済用アプリをインストールしている。〈19頁〉

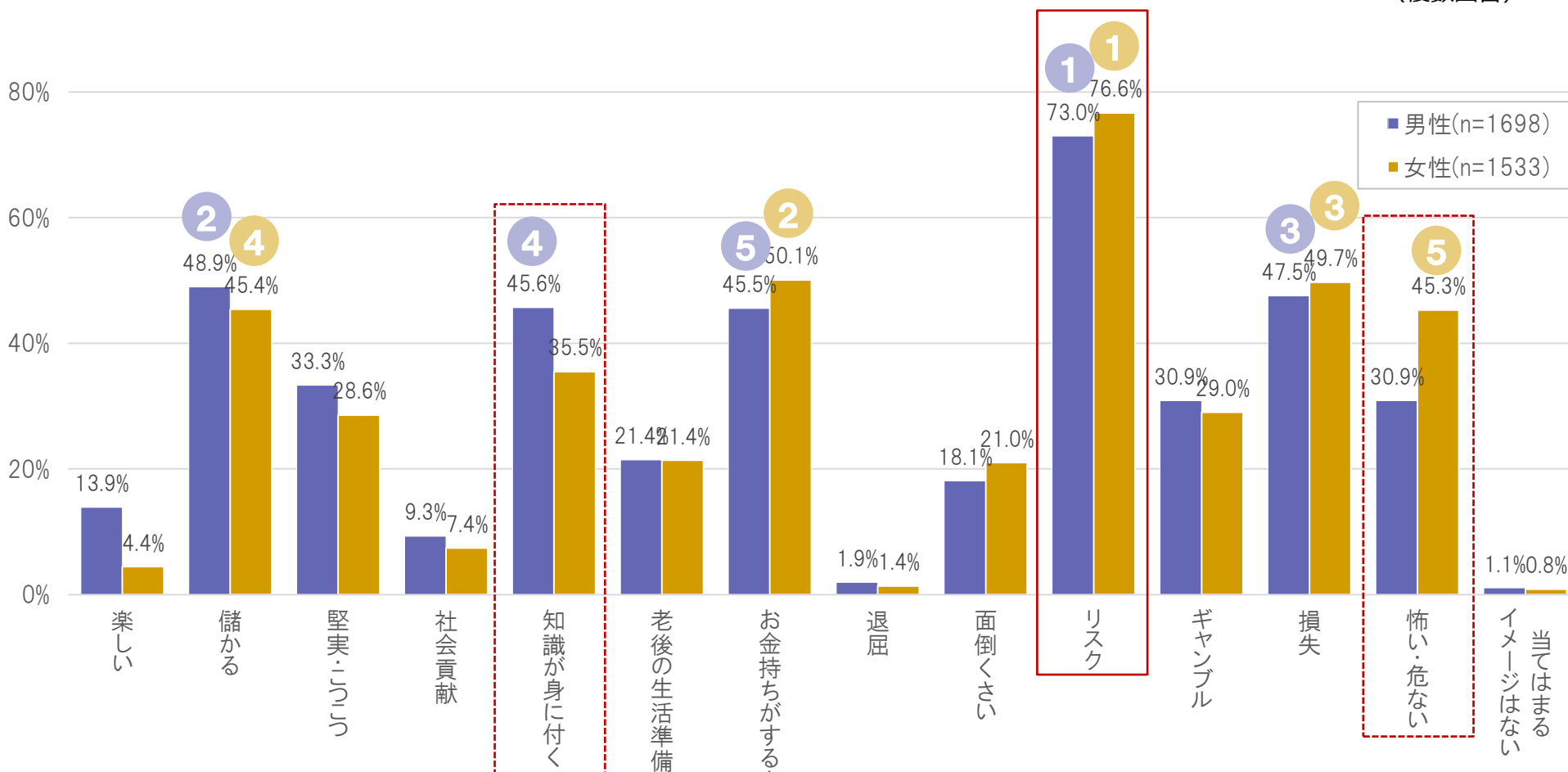
\* : 投資実施までステップに関しては、33頁ご参照

# 金融リテラシーと投資の状況① – 学生の「投資」のイメージ

学生の7割超は、投資のイメージとして「リスク」を挙げた。また、男子学生は「知識が身につく」、女子学生は「怖い・危ない」イメージを持つ人が相対的に多い。

学生の「投資」のイメージ

(複数回答)



※ ● : 男性の上位5位までのイメージ、 ● : 女性の上位5位までのイメージ

# 金融リテラシーと投資の状況② - 金融リテラシー

学生の金融リテラシーは、男女とも半数以上が「低リテラシー」に分類される。

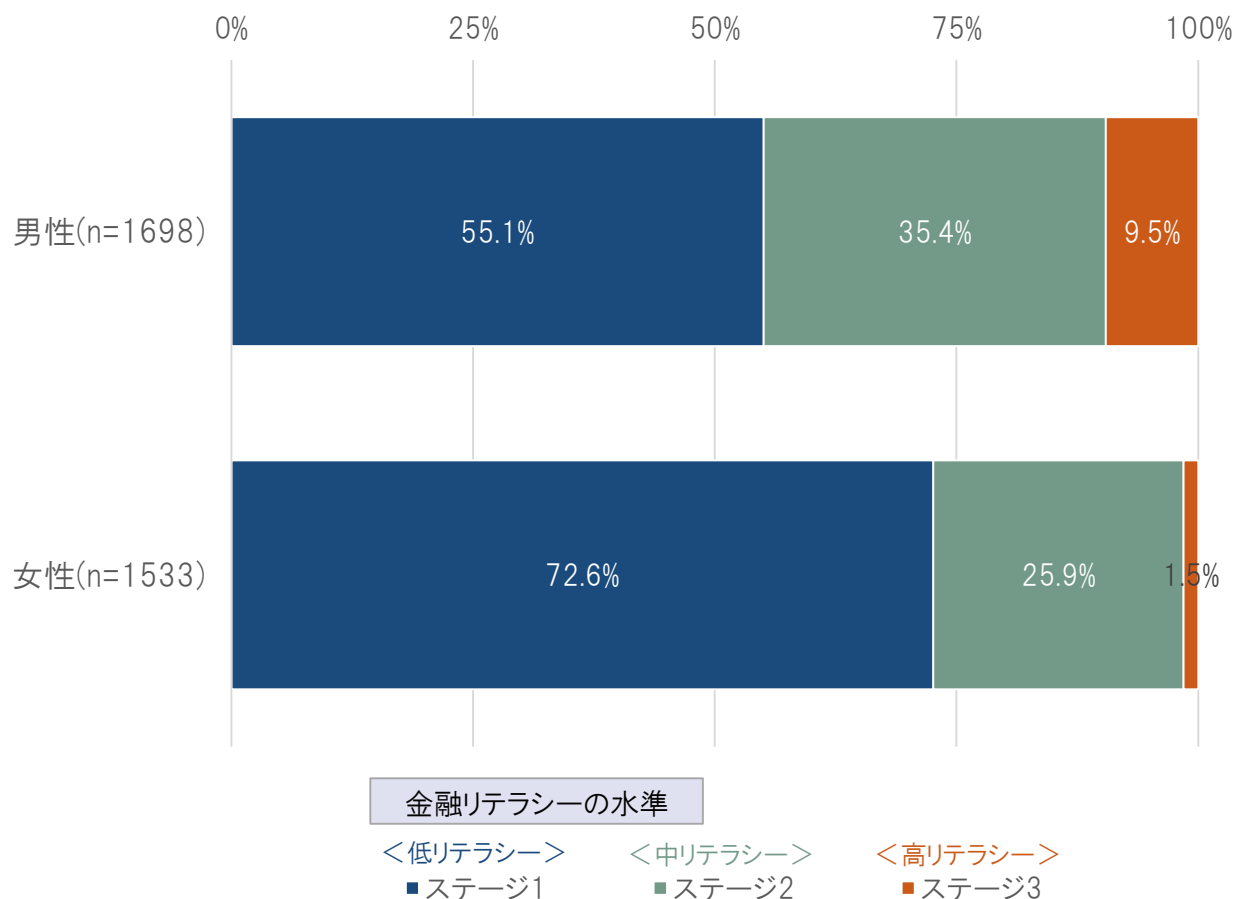
男女を比較すると、男性の方が女性よりも相対的にリテラシーが高い。

## 所感

当研究所では、「金融リテラシー」を金融商品や自身の金融資産・ライフプランについて、能動的に情報を収集し、自律的な(周りの情報に流されない)判断によって行動する力と定義して指数化している。(詳細は34~36頁ご参照)

## 学生の金融リテラシー

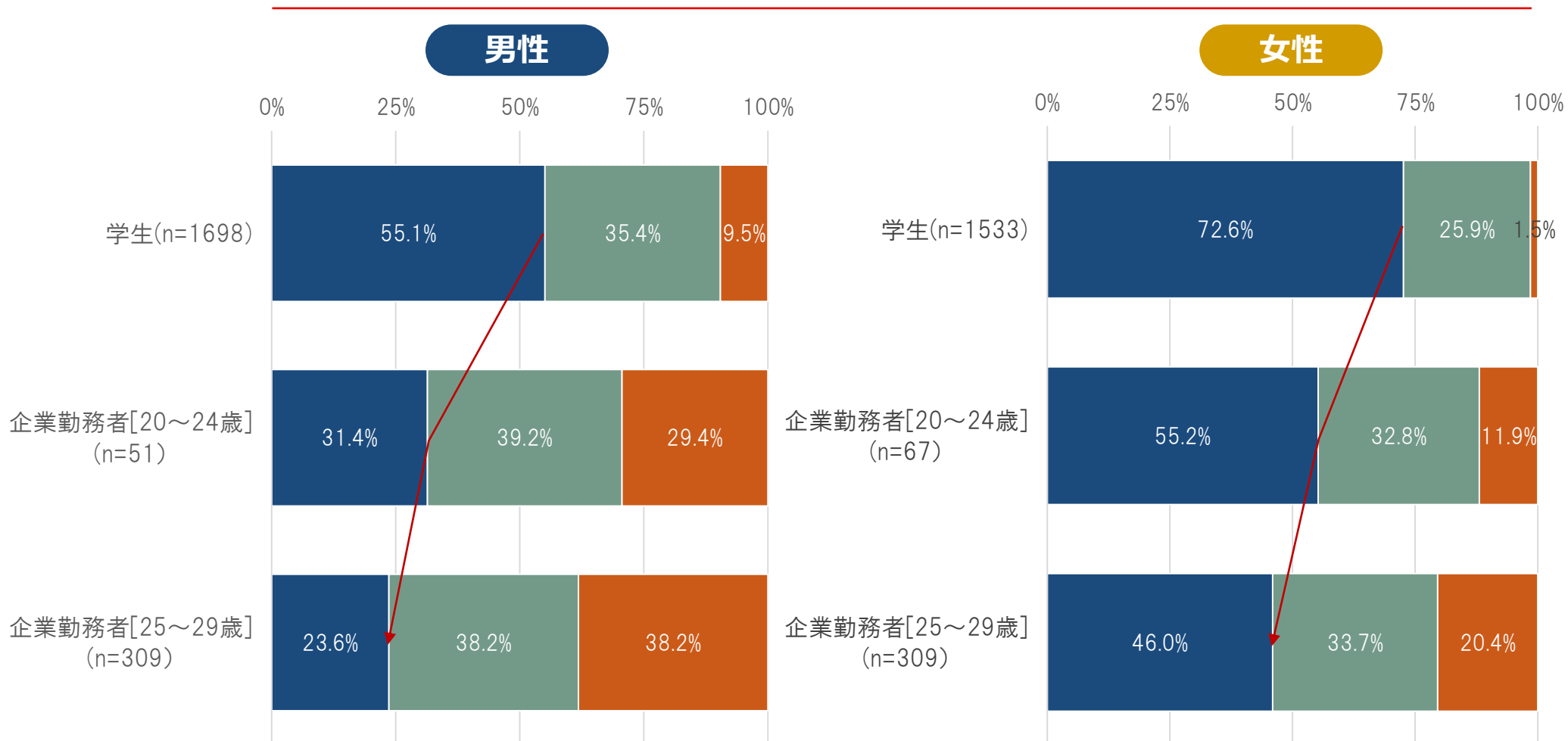
(n=3,231)



# 金融リテラシーと投資の状況③ – 企業勤務者との比較

企業勤務者と比較しても、学生は金融リテラシーが低い傾向。また、企業勤務者では、20代前半よりも後半の人の方が高リテラシーの人の割合が高い。

## 金融リテラシーの比較



金融リテラシーの水準  
 <低リテラシー> <中リテラシー> <高リテラシー>  
 ■ステージ1 ■ステージ2 ■ステージ3

※企業勤務者は、当研究所にて2020年1月に実施した「金融リテラシー1万人調査」の20歳代のデータを元に分析。



# 金融リテラシーと投資の状況④ – 投資の状況

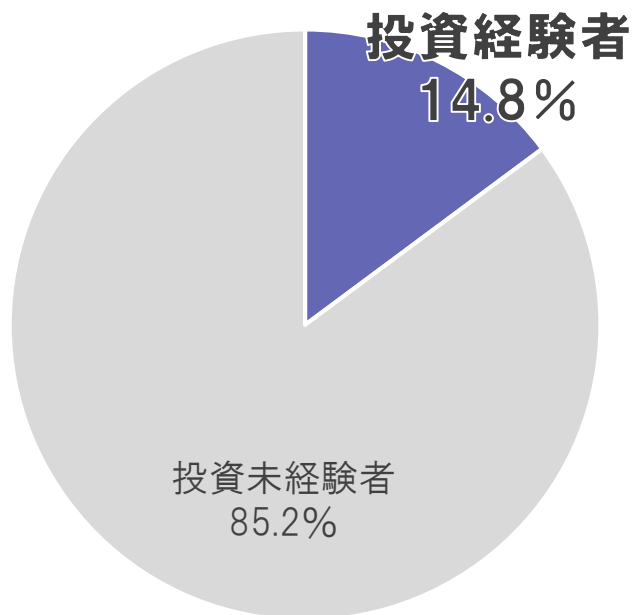
投資をしている人の割合は、男子学生で14.8%、女子学生で3.8%。

男性は女性よりも投資をしている人の割合が高いものの、8割超の人は投資をしていない。

## 学生の投資の状況

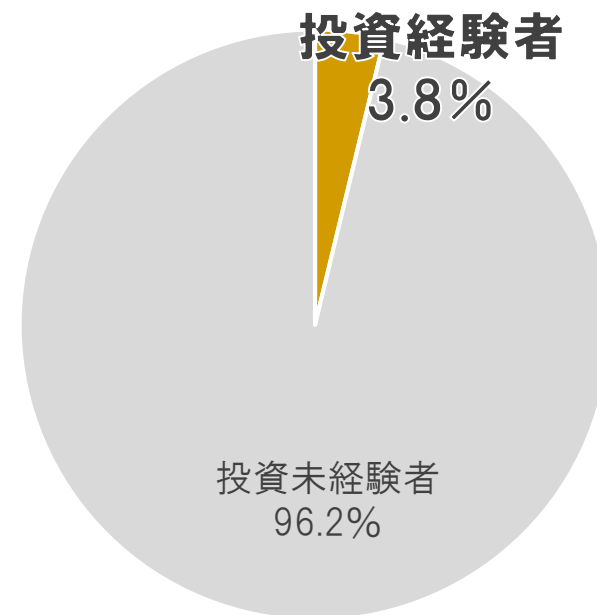
男性

(n=1,698)



女性

(n=1,533)



### 所感

学生で投資をしている人は少数派。

次頁では、投資実施までの段階を「5つのステップ」\*に区分し、学生がどの段階に在るのかを確認する。

\*: 投資実施までの「5つのステップ」に関しては、33頁ご参照。

# 金融リテラシーと投資の状況⑤ – 投資実施までの5つのステップ

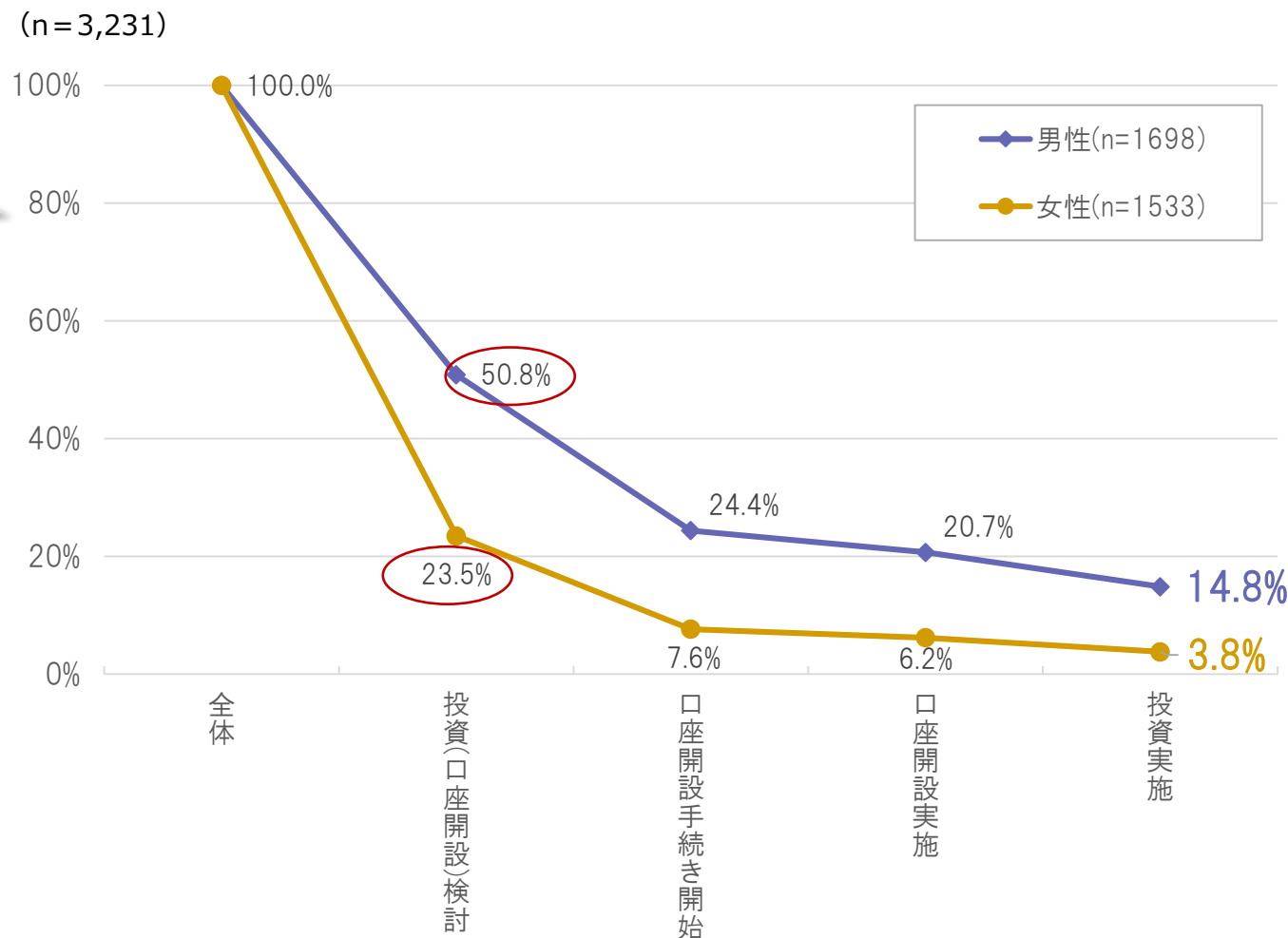
投資実施までの、どのステップまで到達しているかを示したグラフは以下のとおり。

「投資検討」に至っている人の割合は男性50.8%、女性23.5%と、投資の検討すらしていない人が多い傾向が確認できる。

## 所感

男女で比較をすると、女性は「投資検討」に至っている人の割合が特に少ない傾向がみられる。次頁に示す企業勤務者においても、同様の傾向が確認できる。

学生の投資実施まで5つのステップ<sup>①</sup>(投資の検討から実施までの段階別残存率\*)



\*: 投資実施までの5つのステップに関し、それぞれの母集団のうち各ステップに到達している人が母集団全体の人数に占める比率。  
(投資実施までの「5つのステップ」に関しては、33頁ご参照)

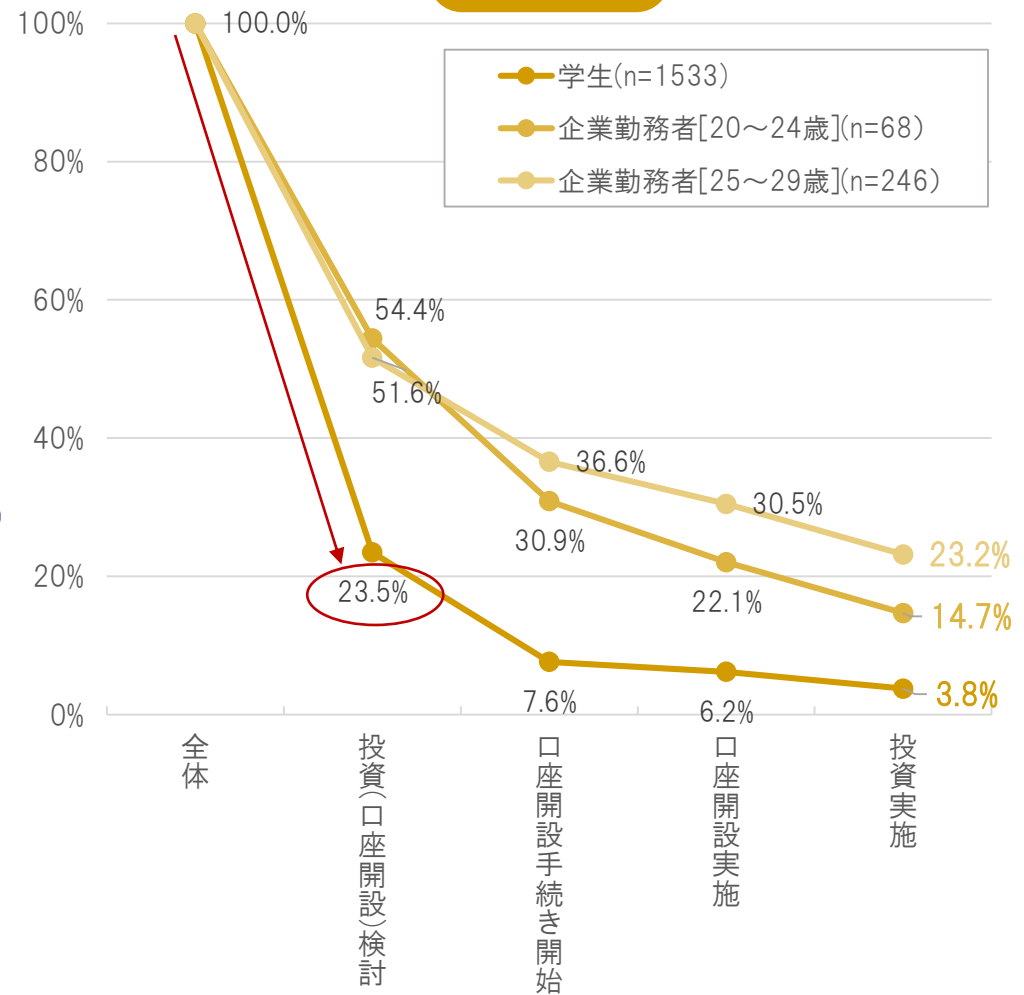
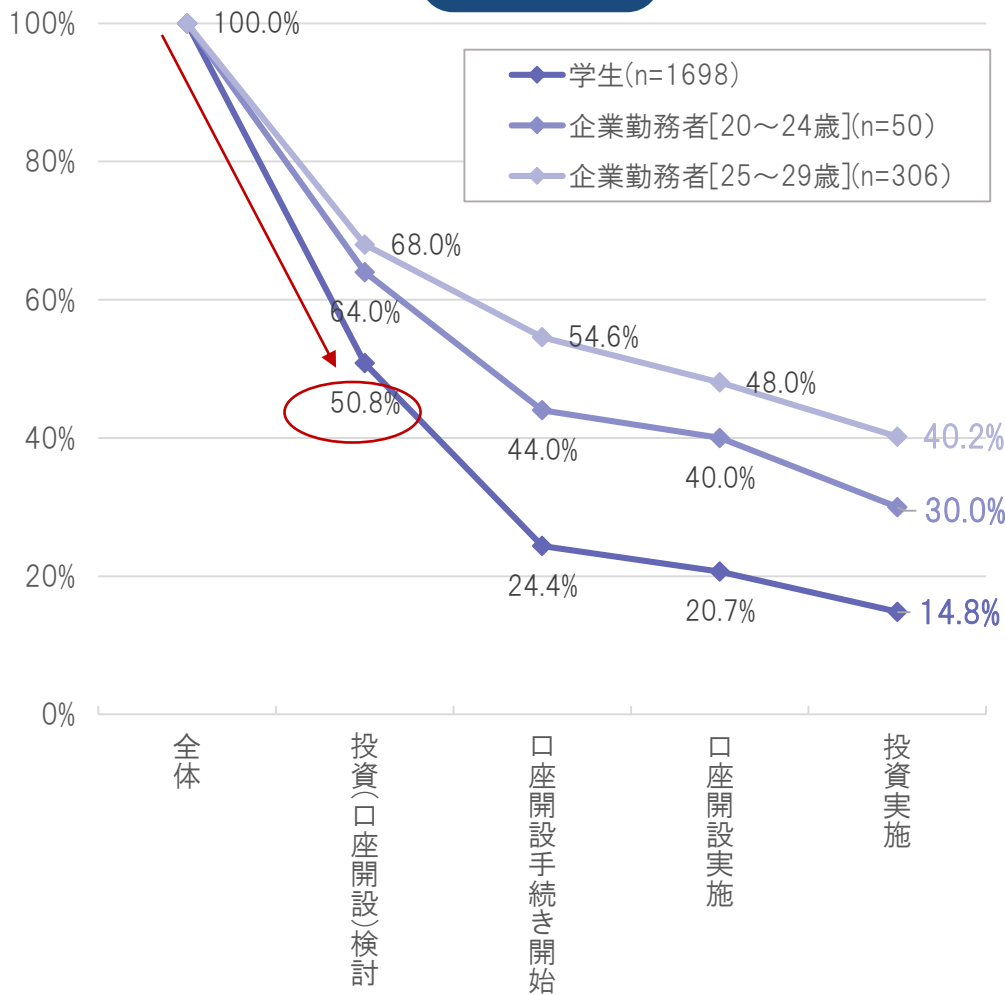
# 金融リテラシーと投資の状況⑥ – 企業勤務者との比較

企業勤務者との比較において、学生は「投資検討」に至っていない人が多く、特に女性ではその傾向が顕著に見られる。

投資の状況の比較

男性

女性



※企業勤務者は、当研究所にて2017年12月に実施した「金融リテラシー1万人調査」(投資の検討から実施までの段階別残存率に関する調査としては最新の調査)の20歳代のデータを元に分析。

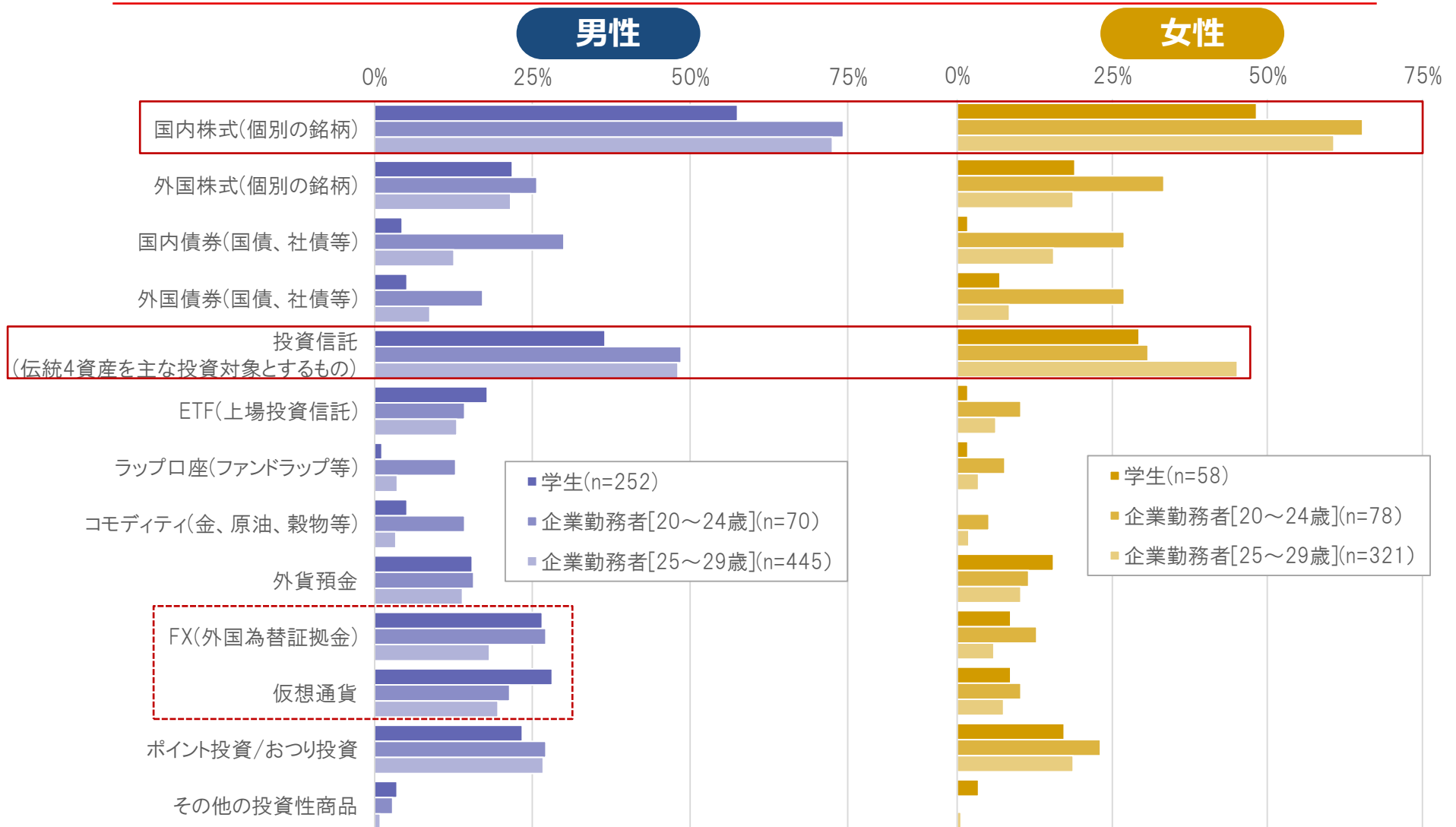
# 金融リテラシーと投資の状況⑦ – 取引経験のある投資性資産

投資を実施している人は、学生・企業勤務者共に国内株式や投資信託の取引経験がある人が多い。  
また、男子学生は、FXや仮想通貨の取引経験がある人も一定数存在する。

## 取引経験のある投資性資産の比較

(回答者)前頁で「投資実施」に至っている人

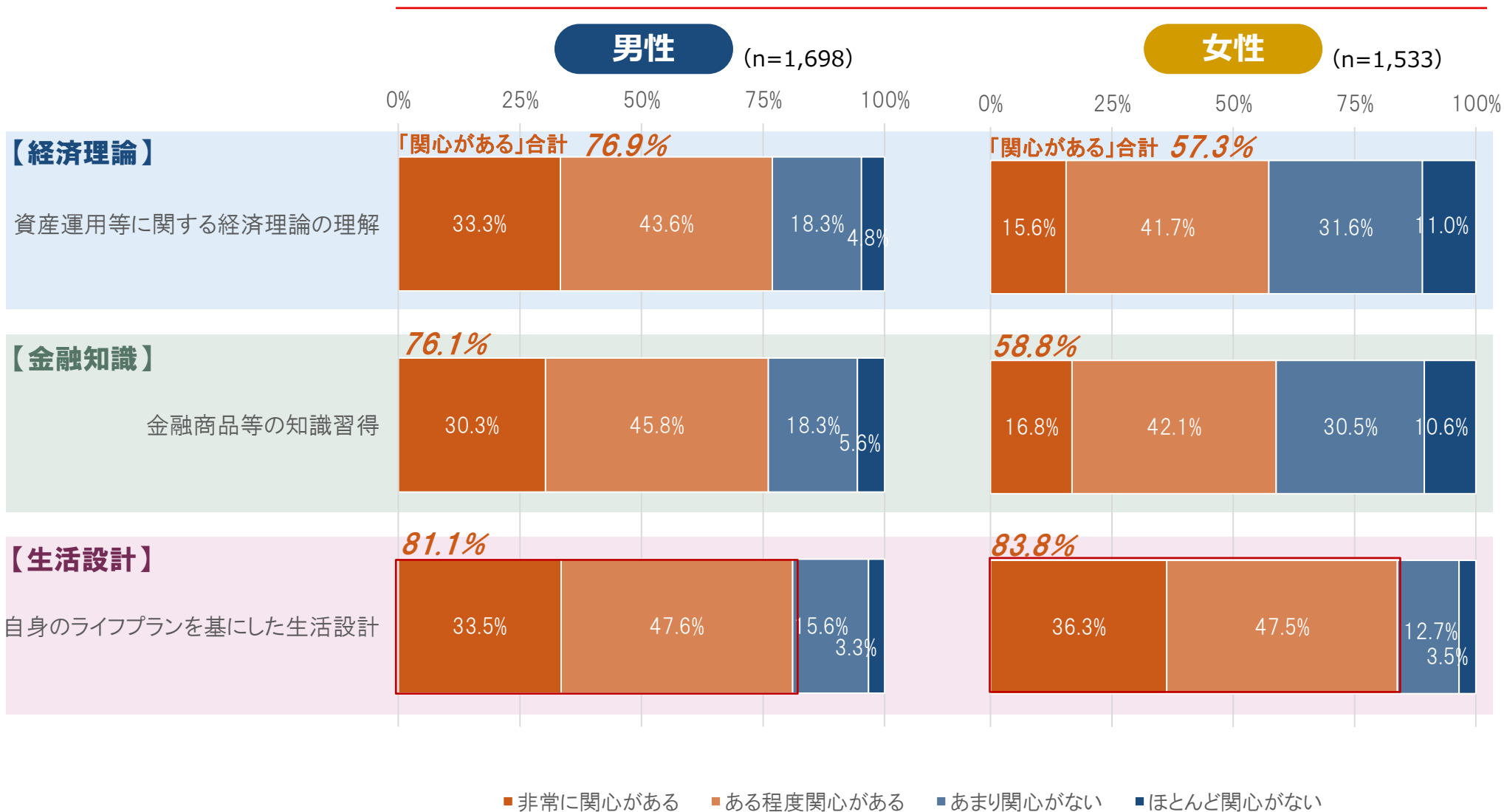
(複数回答)



# 資産形成への関心と理解① – 資産形成への関心

学生の資産形成への関心は低くはない。「生活設計」への関心がある人の割合は男女とも8割超であり、男子学生は「経済理論」「金融知識」について関心がある人の割合も7割半ば。

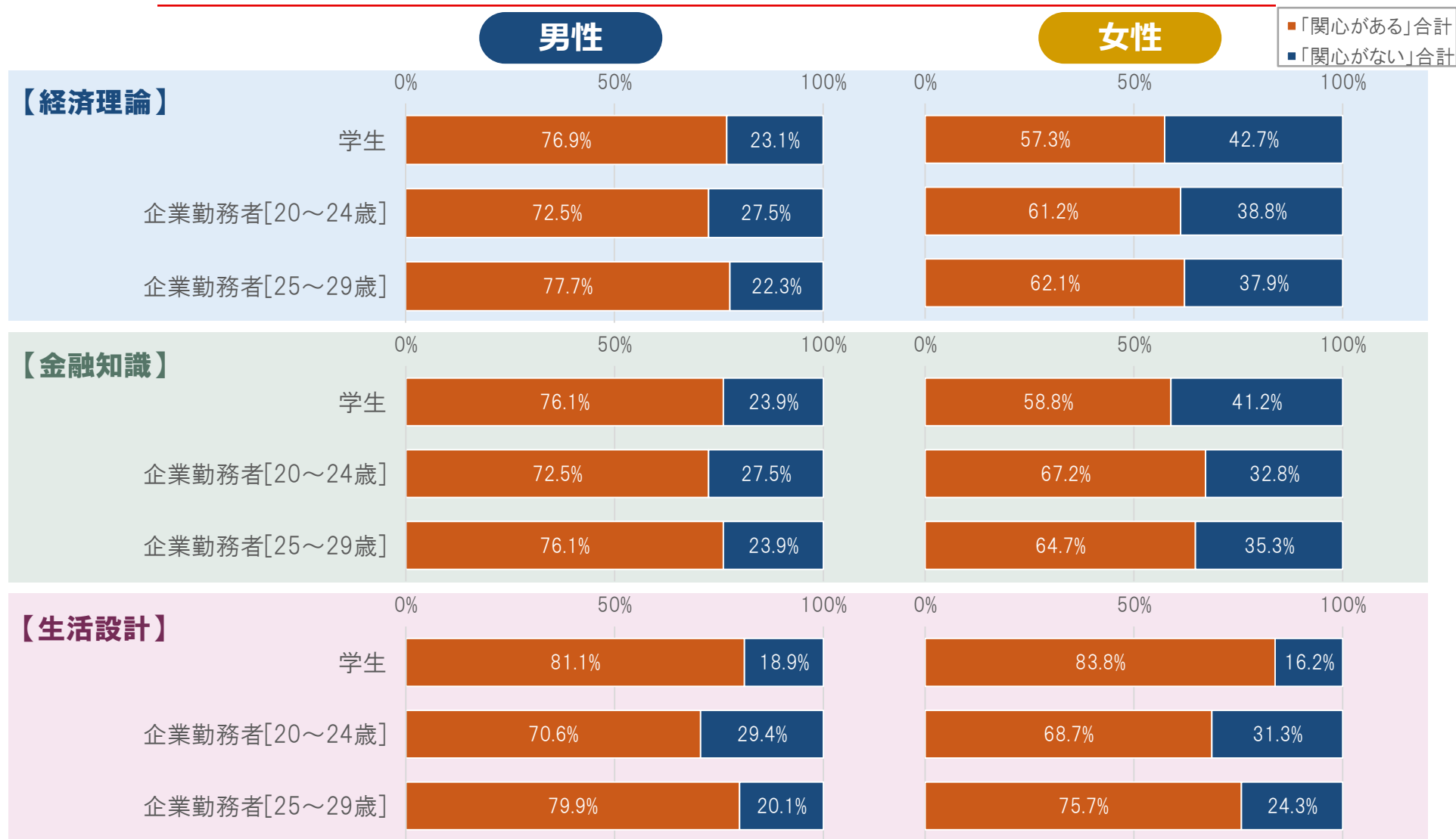
学生の資産形成への関心



# 資産形成への関心と理解② – 企業勤務者との比較

企業勤務者と学生の関心度合いはほぼ同水準であり、金融リテラシーの水準の差ほどの違いは見られない。

資産形成への関心の比較



※企業勤務者は、当研究所にて2020年2月に実施した「投資経験者の意向調査」の20歳代のデータを元に分析。

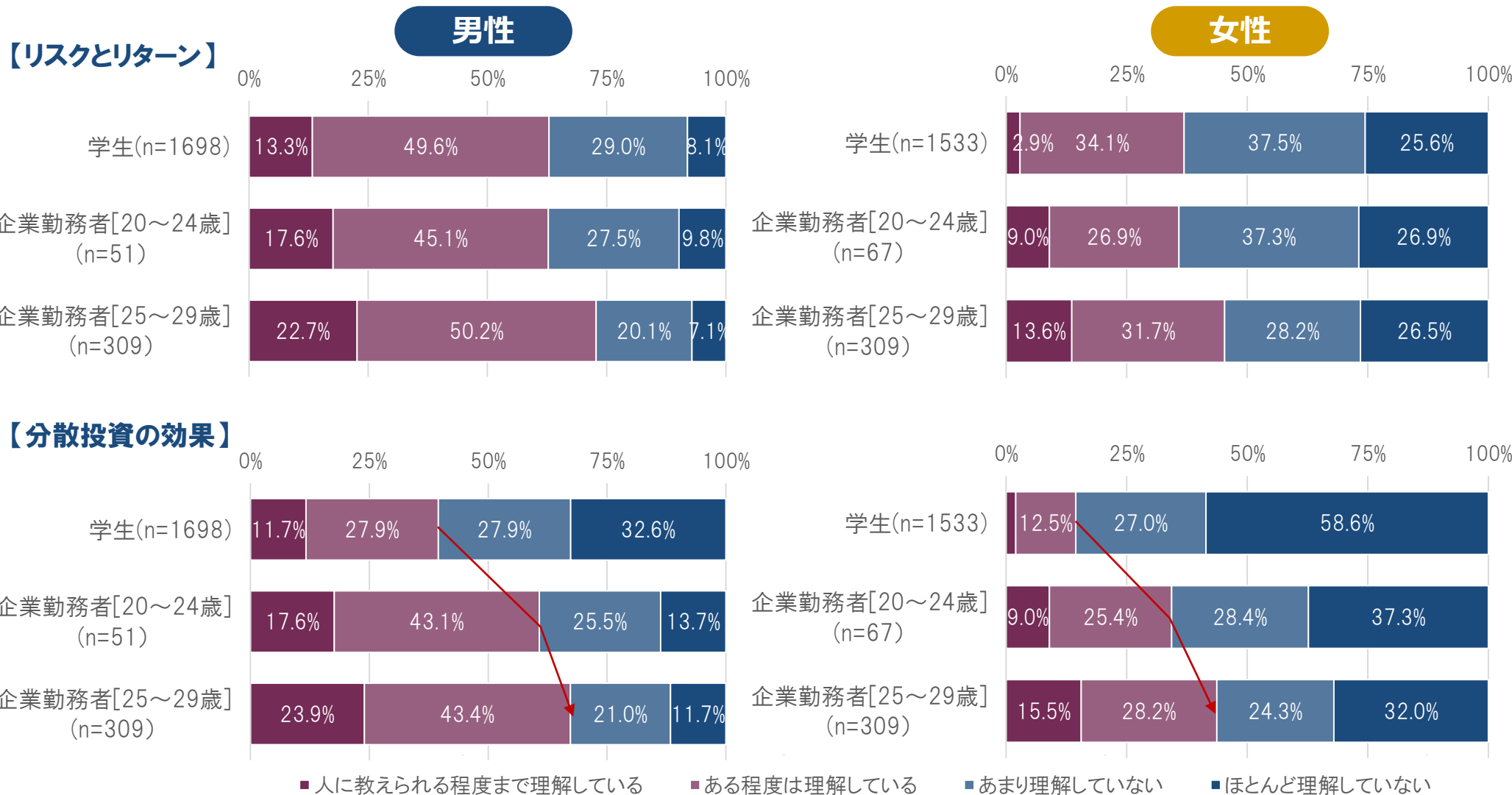
※サンプル数は、男性 学生:n=1,698、企業勤務者[20～24歳]:n=51、企業勤務者[25～29歳]:n=309

女性 学生:n=1,533、企業勤務者[20～24歳]:n=67、企業勤務者[25～29歳]:n=309

# 資産形成への関心と理解③－【経済理論】に係る事項への理解

「リスクとリターン」に関しては理解度に大きな差は見られない一方で、「分散投資の効果」については学生の理解度が相対的に低い。

リスクとリターン/分散投資の効果\*の理解度の比較



※企業勤務者は、当研究所にて2020年1月に実施した「金融リテラシー1万人調査」の20歳代のデータを元に分析。

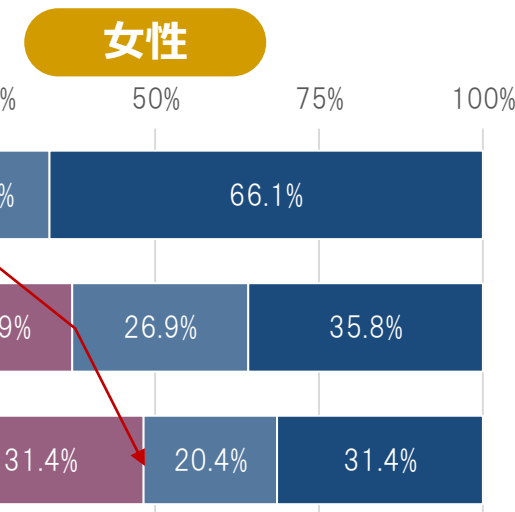
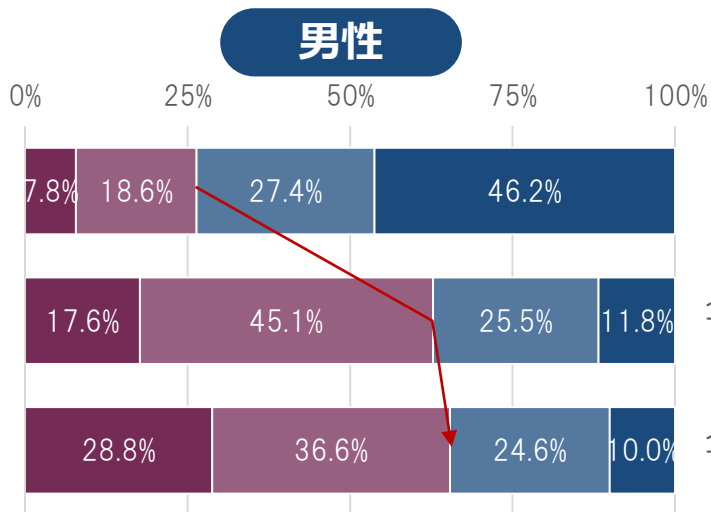
\*その他の「経済理論」に掛かる事項(円高・円安の概念/インフレ・デフレの概念/利回りの概念/GDP・GNPの概念)への理解度に関しては、Appendix2ご参照

# 資産形成への関心と理解④ – 【金融知識】に係る事項への理解

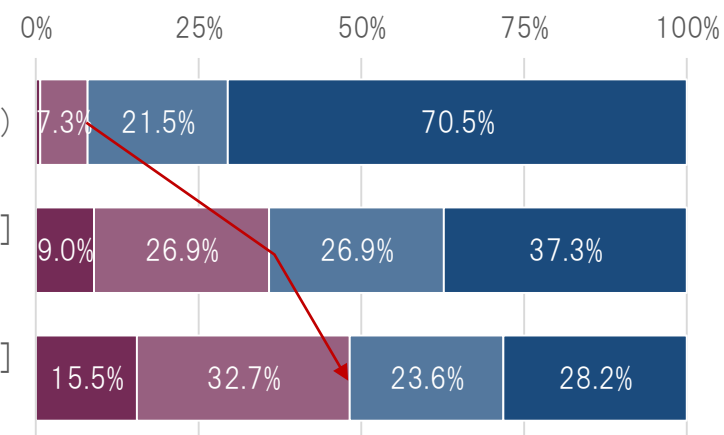
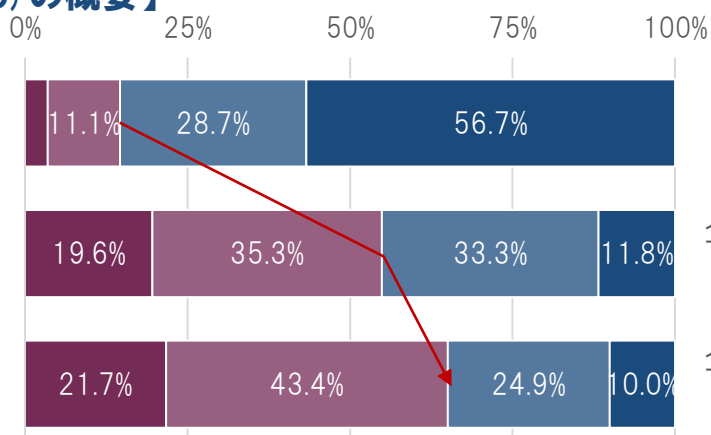
NISAや確定拠出年金について理解している人の割合は、企業勤務者と比較して学生は低い傾向がある。

NISA制度の概要/確定拠出年金(DC)の概要\*の理解度の比較

## 【NISA制度の概要】



## 【確定拠出年金(DC)の概要】



■ 人に教えられる程度まで理解している ■ ある程度は理解している ■ あまり理解していない ■ ほとんど理解していない

※企業勤務者は、当研究所にて2020年1月に実施した「金融リテラシー1万人調査」の20歳代のデータを元に分析。

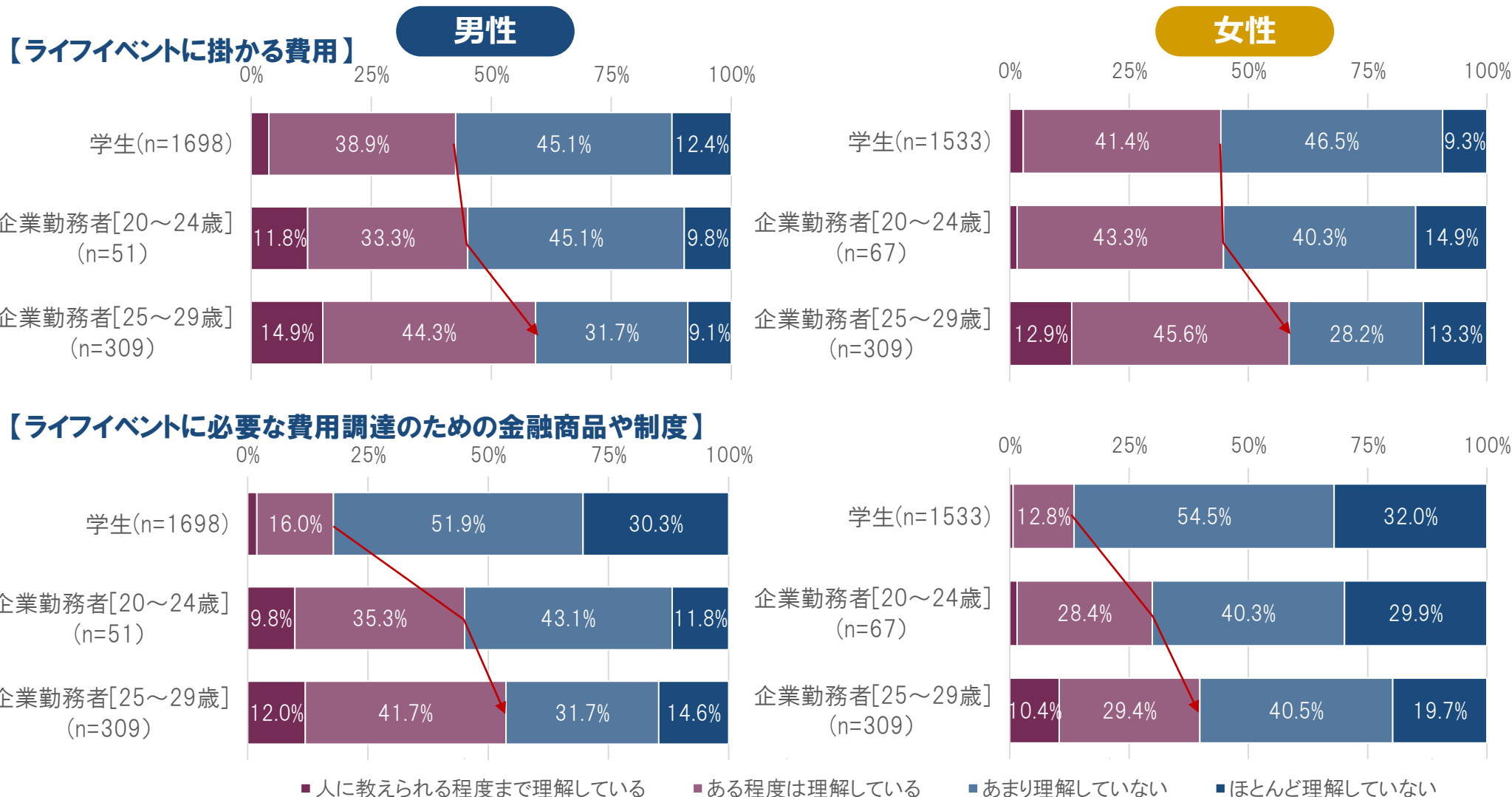
\*その他の「金融知識」に掛かる事項(外貨預金・外貨MMF/投資信託/国債・公社債/株式)への理解度に関しては、Appendix2ご参照



# 資産形成への関心と理解⑤ – 【生活設計】に係る事項への理解

ライフイベントに掛かる費用について理解している人の割合は、20代後半の企業勤務者では過半数。  
費用調達のための商品・制度については、学生の理解度が相対的に低い傾向がある。

ライフイベントに掛かる費用/費用調達のための金融商品や制度\*の理解度の比較



\*企業勤務者は、当研究所にて2020年1月に実施した「金融リテラシー1万人調査」の20歳代のデータを元に分析。

16 \*その他の「生活設計」に係る事項(ライフイベントの種類/ゆとりある生活に必要な額/退職金額・年金額/老後収支や不足時の補填計画等)への理解度に関しては、Appendix2ご参照

# 資産形成に関する学習経験①

男子学生は、自らウェブや新聞・雑誌・書籍等で学習したことがある人が一定数存在する。

女子学生は「特に情報収集・学習したことはない」人の割合が過半数と、相対的に多い。

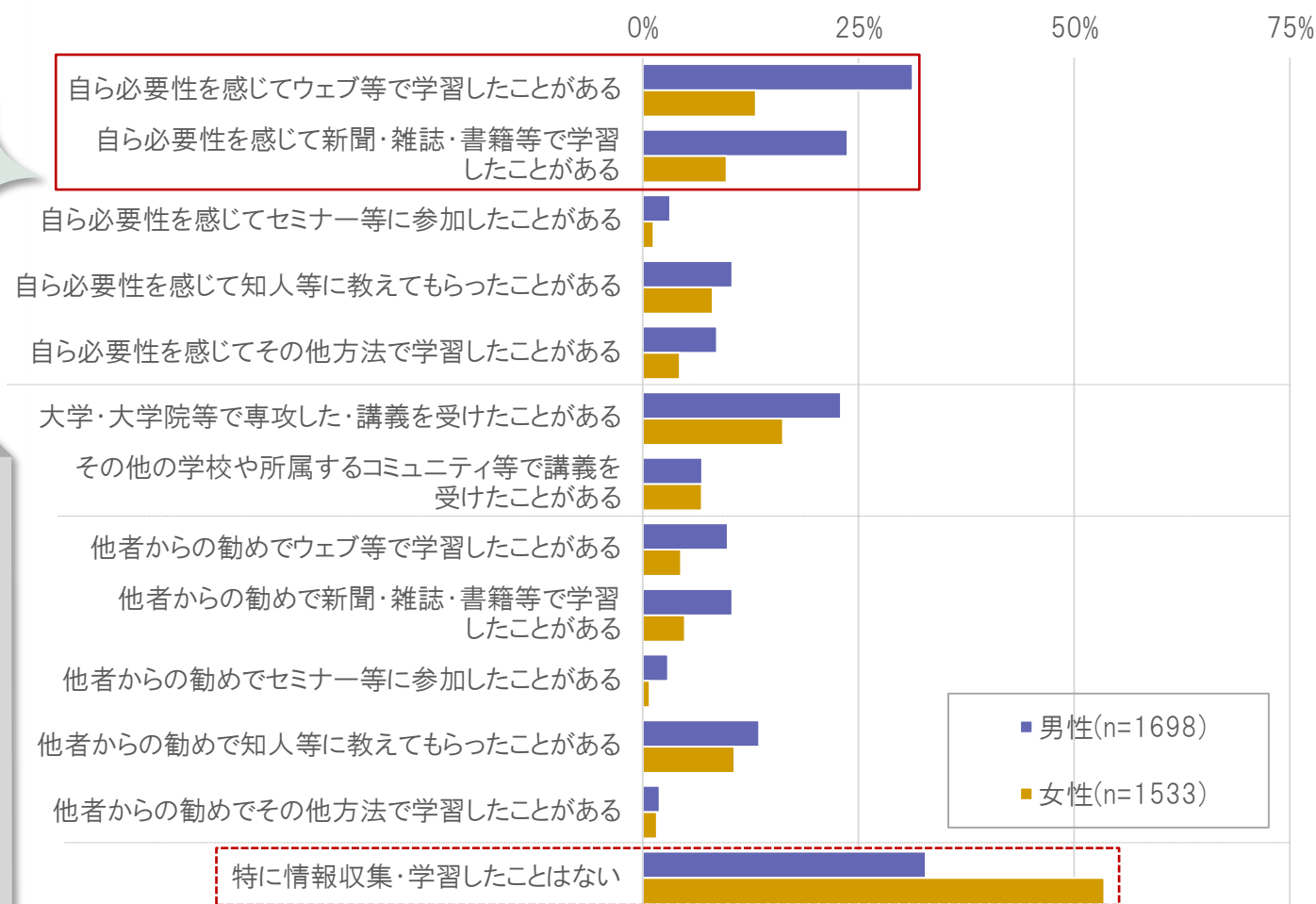
## 所感

男子学生は「大学・大学院等で選考した・講義を受けたことがある」人の割合も女性と比較して高いことから、所属学部の差が、学習経験の差に影響している可能性も考えられる。

## 学生の資産形成に関する学習経験

(n=3,231)

(複数回答)

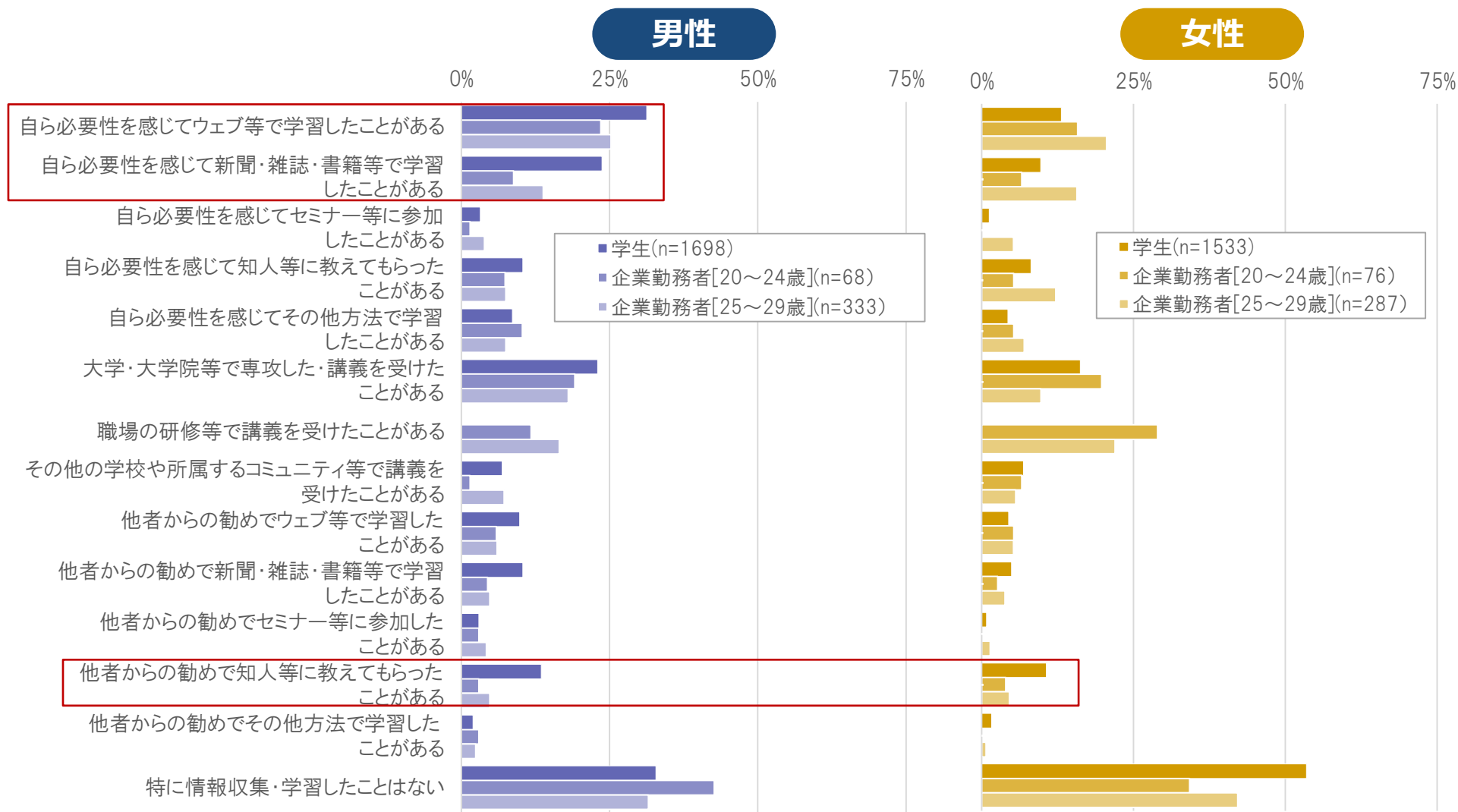


# 資産形成に関する学習経験② – 企業勤務者との比較

男子学生は、自らウェブや書籍等で学習する人の割合が企業勤務者よりも高い。また、男女とも「知人等に教えてもらった」人の割合が企業勤務者よりも高い傾向が見られる。

資産形成に関する学習経験の比較

(複数回答)

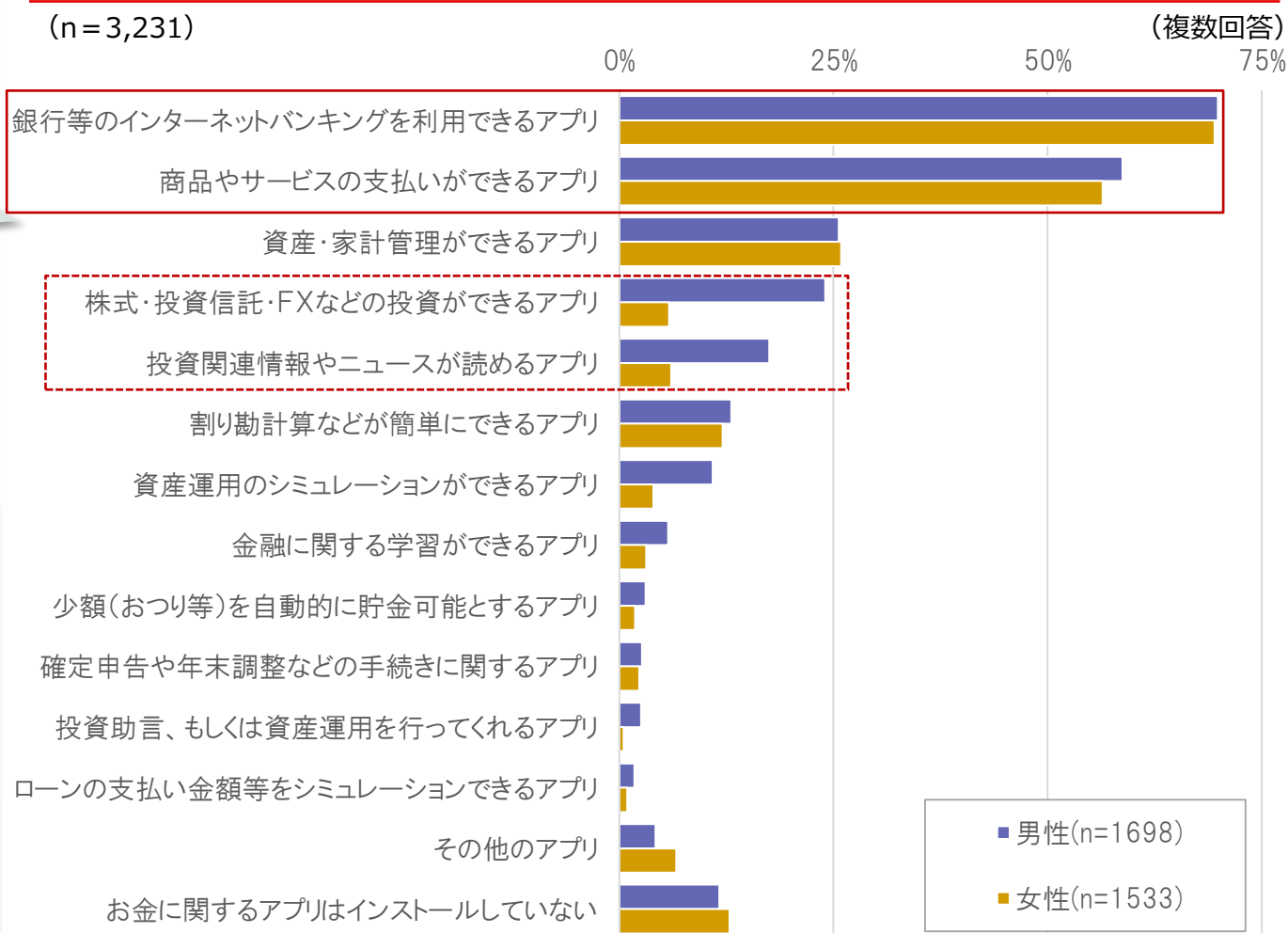


# お金に関するアプリのインストール状況①

学生の過半数は、インターネットバンキングや決済用アプリをインストールしている。

学生は、男女ともお金に関するアプリを活用している人が多い。

## 学生のお金に関するアプリのインストール状況



### 所感

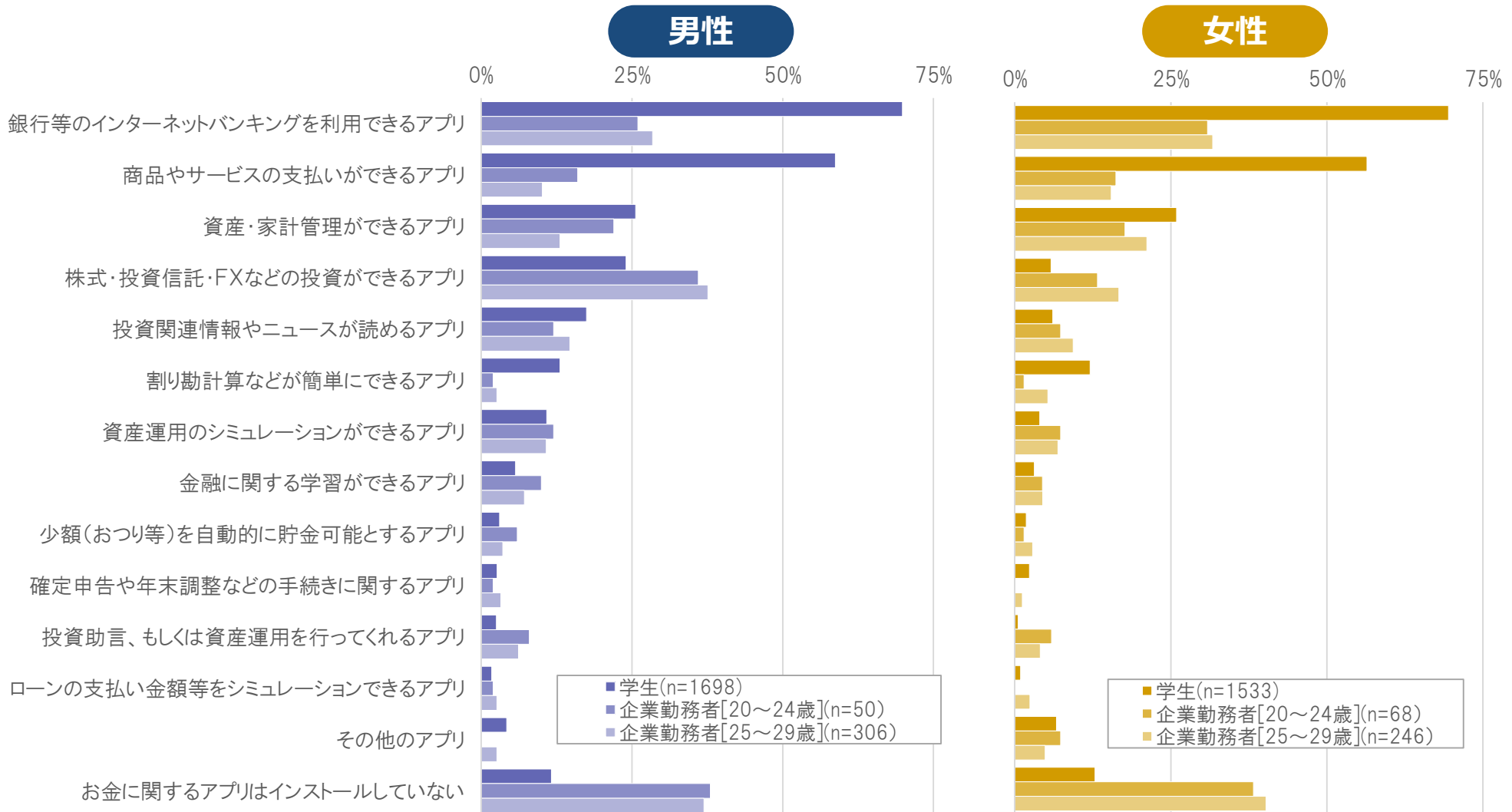
投資ができるアプリや、投資関連情報が読めるアプリの活用率は、男子学生の方が高い。

# (ご参考) お金に関するアプリのインストール状況② – 企業勤務者との比較

本頁は、2019年3月に企業勤務者に対して実施した過去調査と今回(2020年8月)実施したアンケートとを比較したものです。  
本頁で見られる傾向の差の要因として、調査期間の違いによる差が大きい可能性があります。

## お金に関するアプリのインストール状況の比較

(複数回答)



## Appendix 1 : 居住形態別の傾向

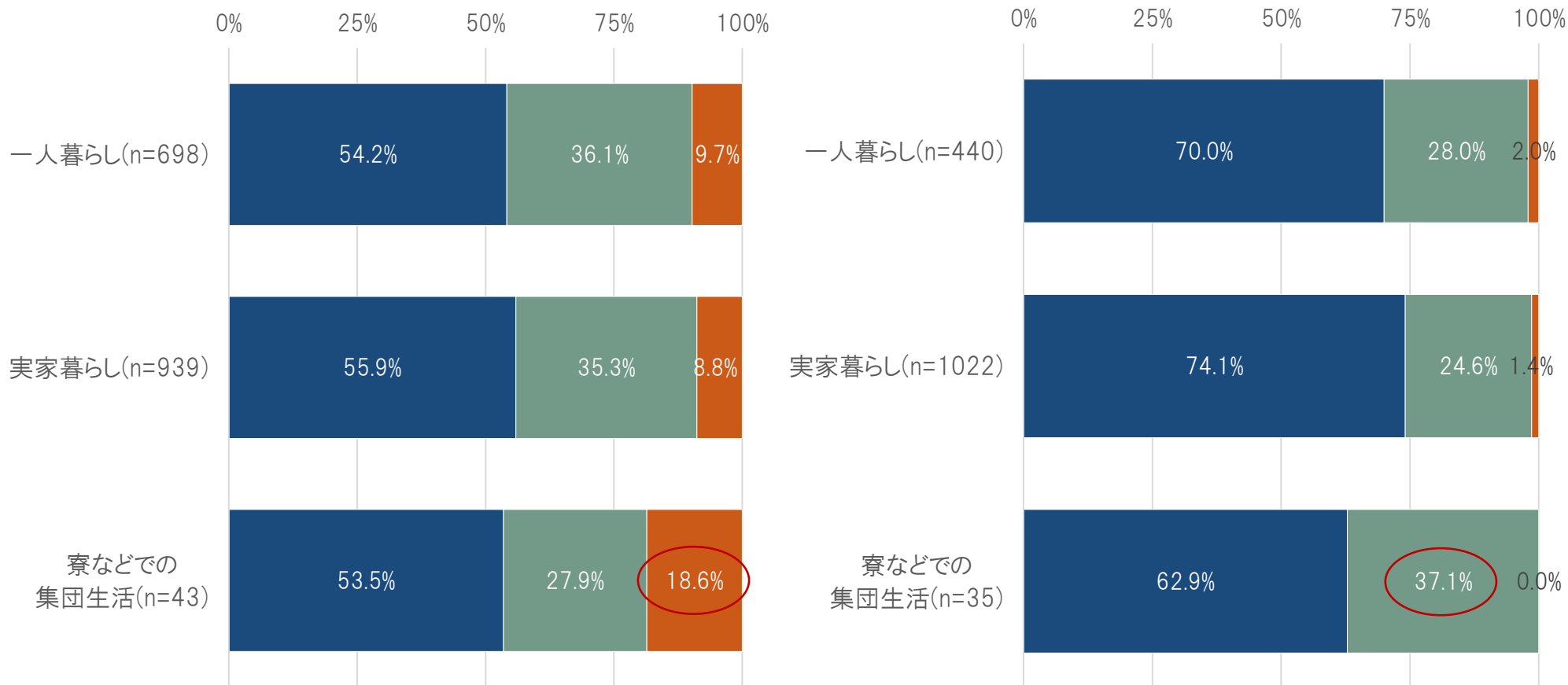
# 金融リテラシー

男女とも「寮などでの集団生活」をしている人は、金融リテラシーが高い人が多い傾向。

## 金融リテラシーの比較

男性

女性



金融リテラシーの水準

<低リテラシー>

<中リテラシー>

<高リテラシー>

■ ステージ1

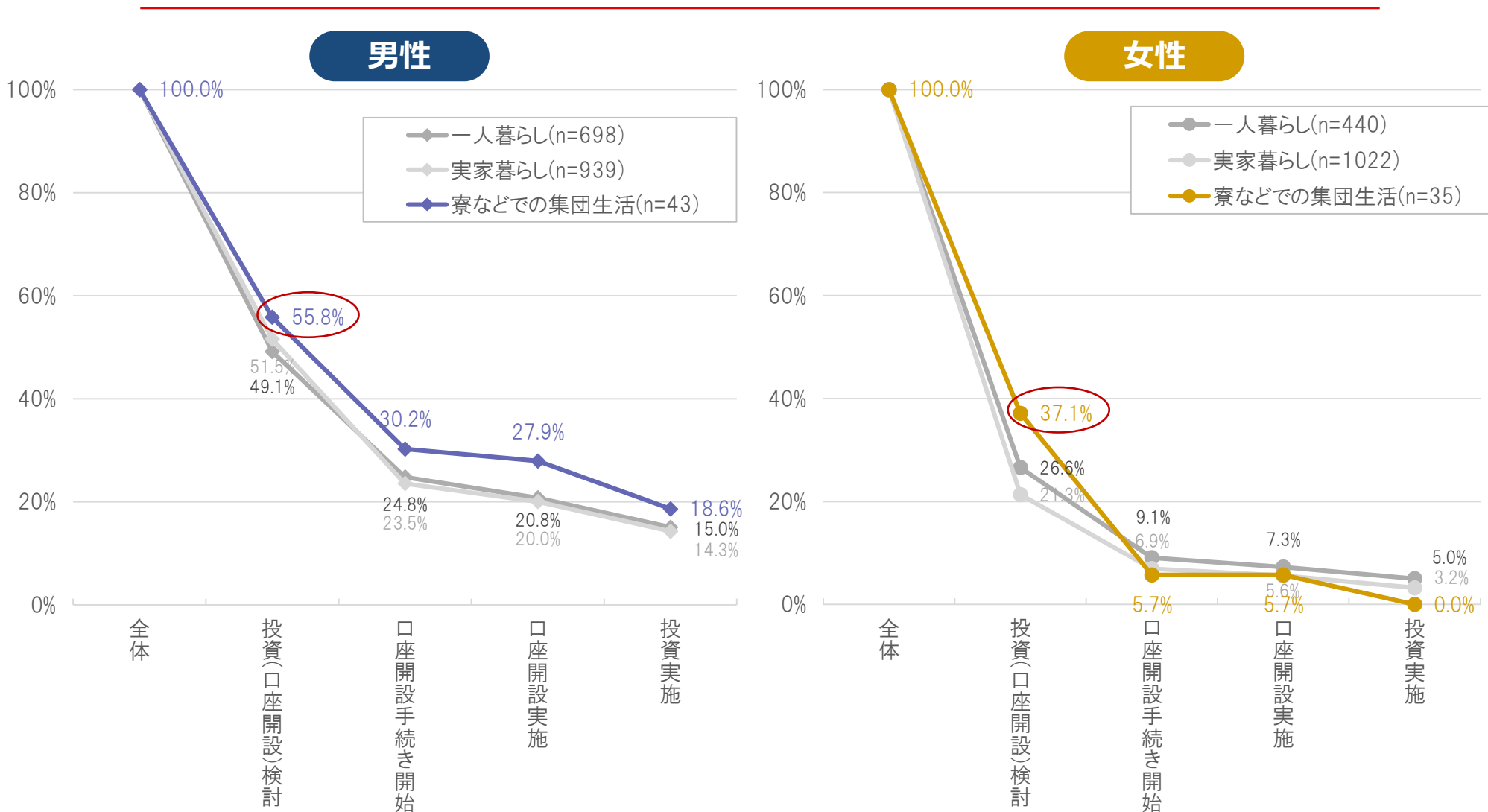
■ ステージ2

■ ステージ3

# 投資実施までのステップ

男女とも、「寮などでの集団生活」をしている人は、投資を検討する人の割合が僅かに高い。

投資の状況の比較

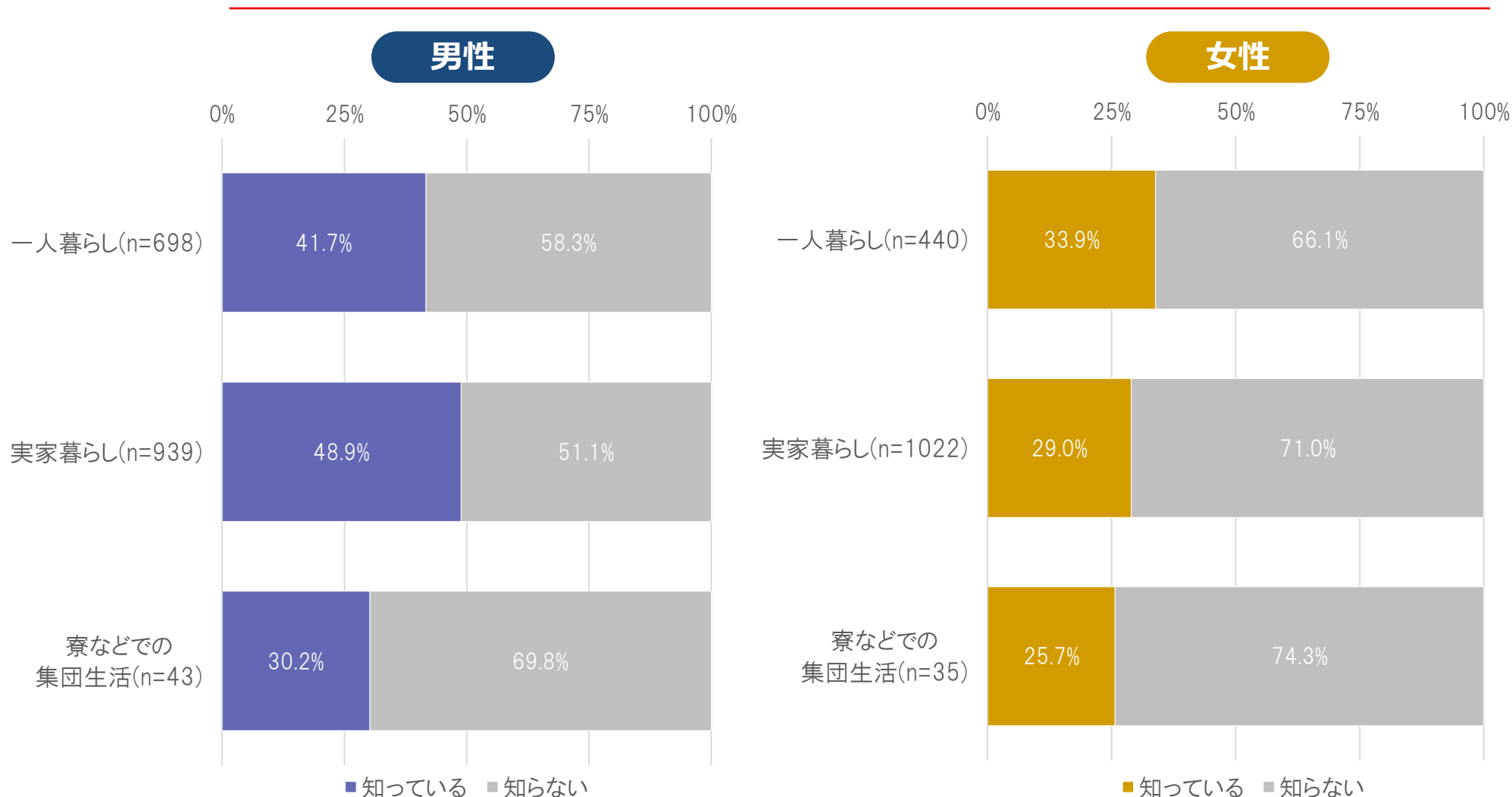




# 積立投資の認知度

男女とも、「寮などでの集団生活」をしている人は、“積立投資”の認知度は低い。

## 積立投資の認知度



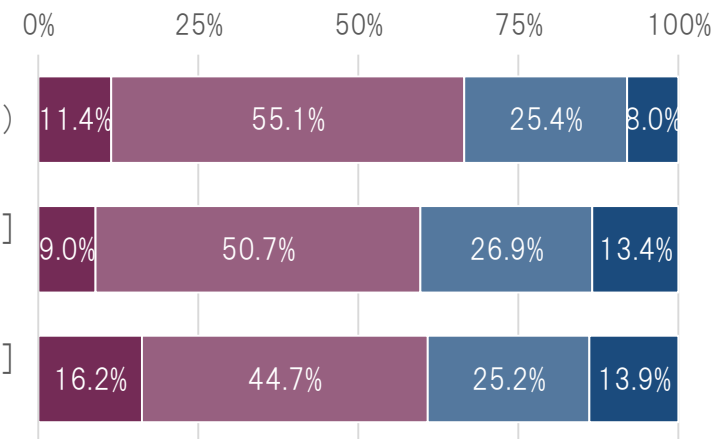
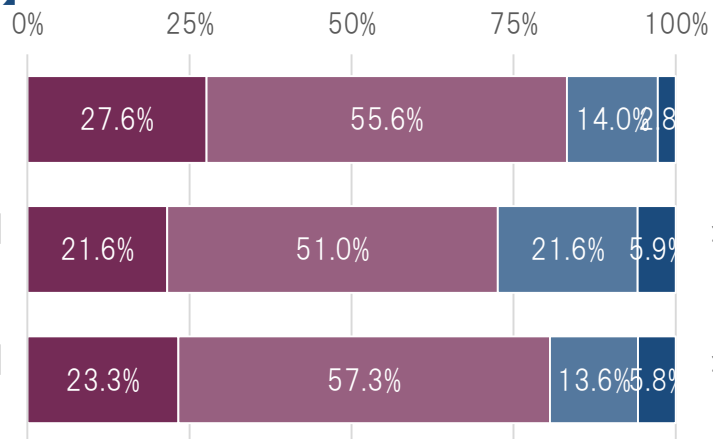
## Appendix2:理解度の比較

# 経済理論に係る事項への理解①

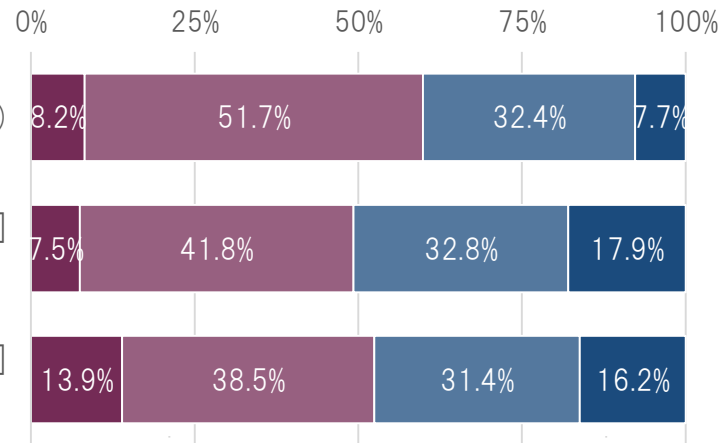
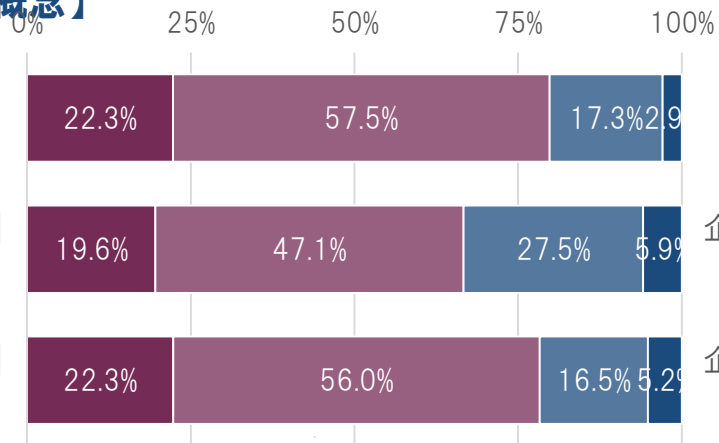
男性

女性

## 【円高・円安の概念】



## 【インフレ・デフレの概念】



■ 人に教えられる程度まで理解している ■ ある程度は理解している ■ あまり理解していない ■ ほとんど理解していない

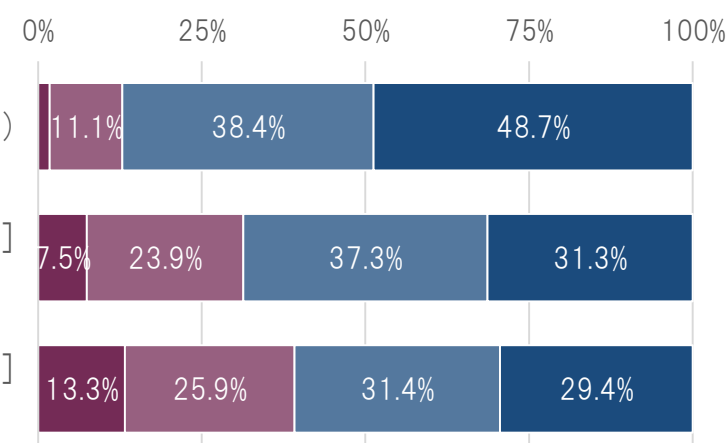
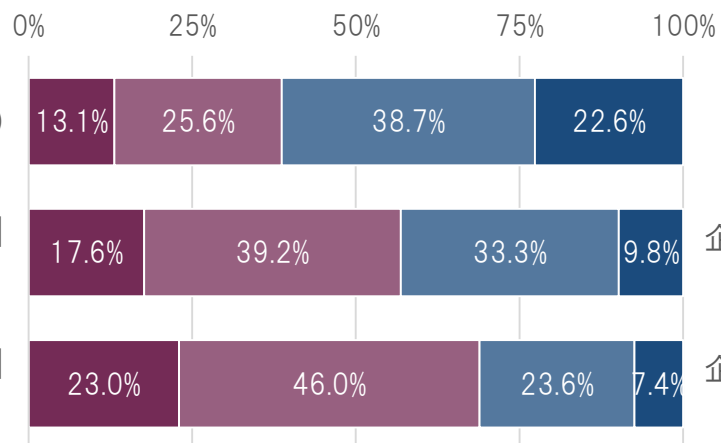
※企業勤務者は、当研究所にて2020年1月に実施した「金融リテラシー1万人調査」の20歳代のデータを元に分析。

# 経済理論に係る事項への理解②

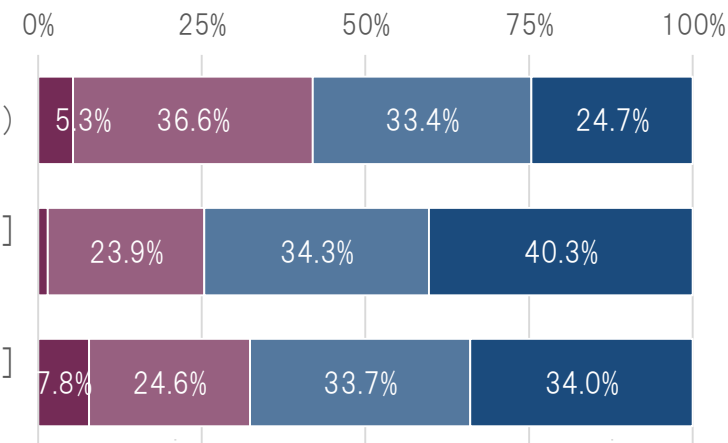
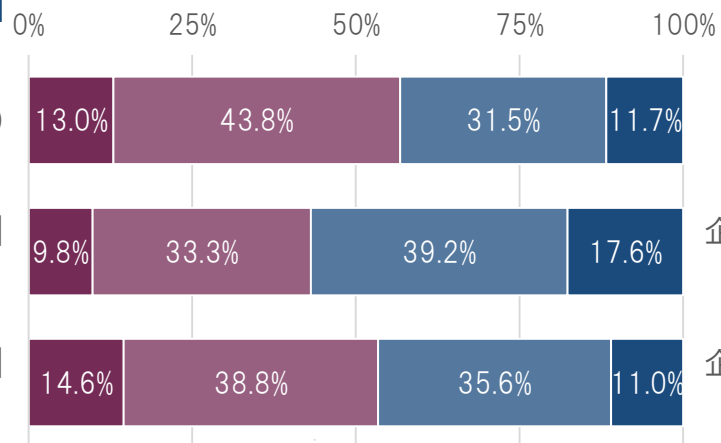
男性

女性

## 【利回りの概念】



## 【GDP・GNPの概念】



■ 人に教えられる程度まで理解している ■ ある程度は理解している ■ あまり理解していない ■ ほとんど理解していない

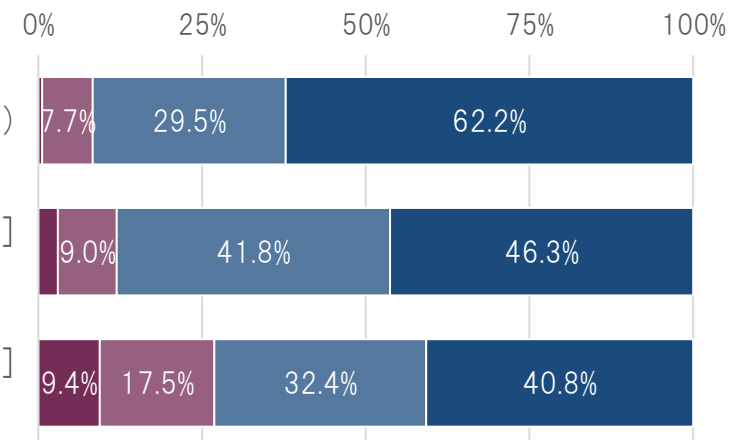
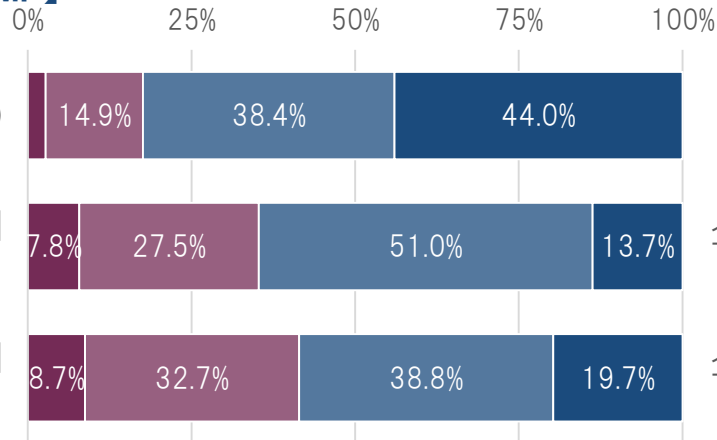
※企業勤務者は、当研究所にて2020年1月に実施した「金融リテラシー1万人調査」の20歳代のデータを元に分析。

# 金融知識に係る事項への理解①

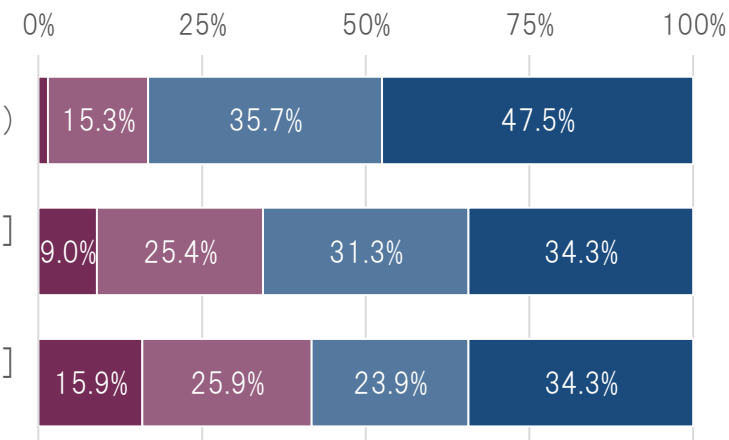
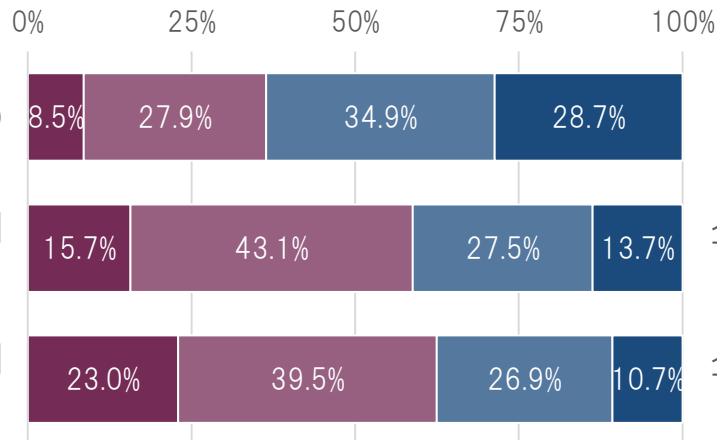
男性

女性

## 【外貨預金・外貨MMF】



## 【投資信託】



■ 人に教えられる程度まで理解している ■ ある程度は理解している ■ あまり理解していない ■ ほとんど理解していない

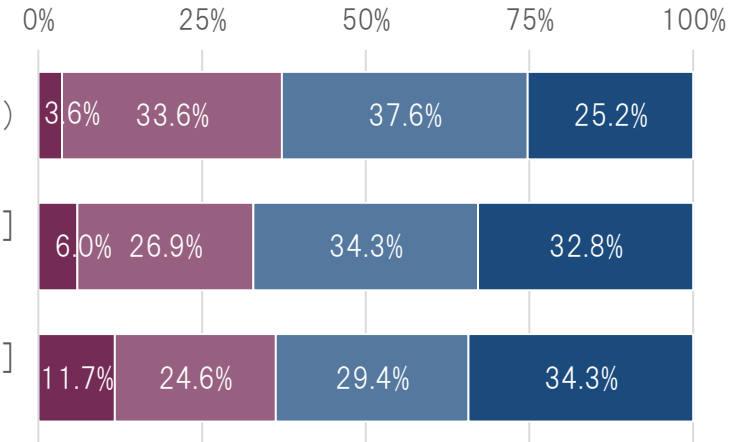
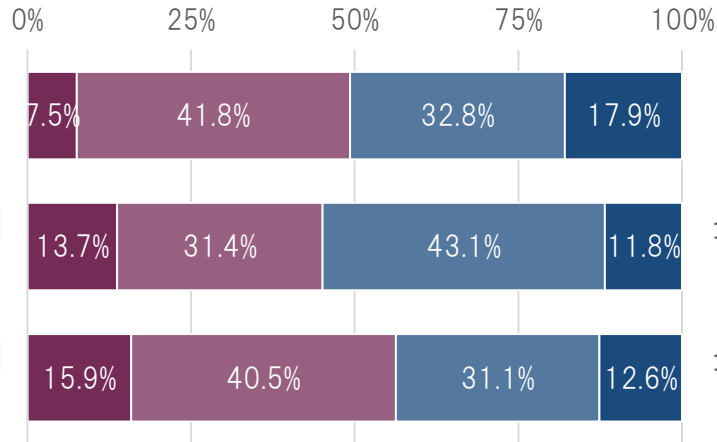
※企業勤務者は、当研究所にて2020年1月に実施した「金融リテラシー1万人調査」の20歳代のデータを元に分析。

# 金融知識に係る事項への理解②

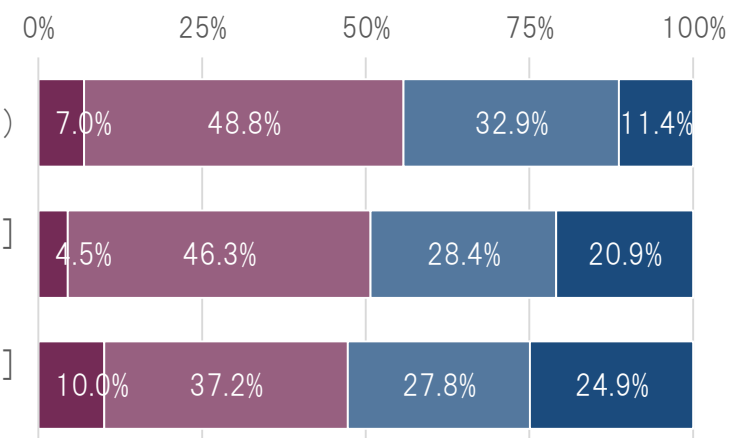
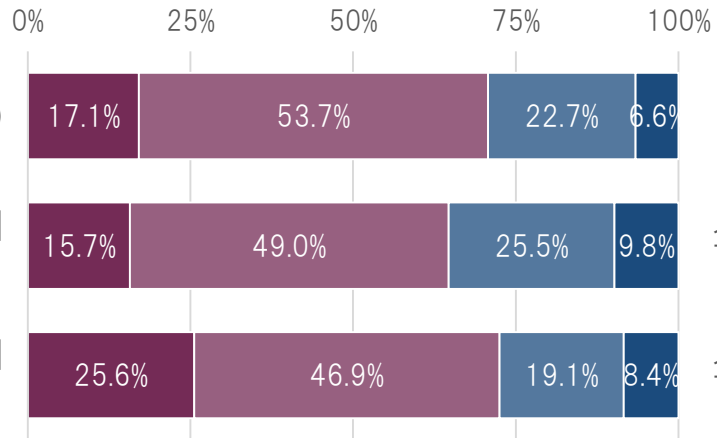
男性

女性

## 【国債・公社債】



## 【株式】



■ 人に教えられる程度まで理解している ■ ある程度は理解している ■ あまり理解していない ■ ほとんど理解していない

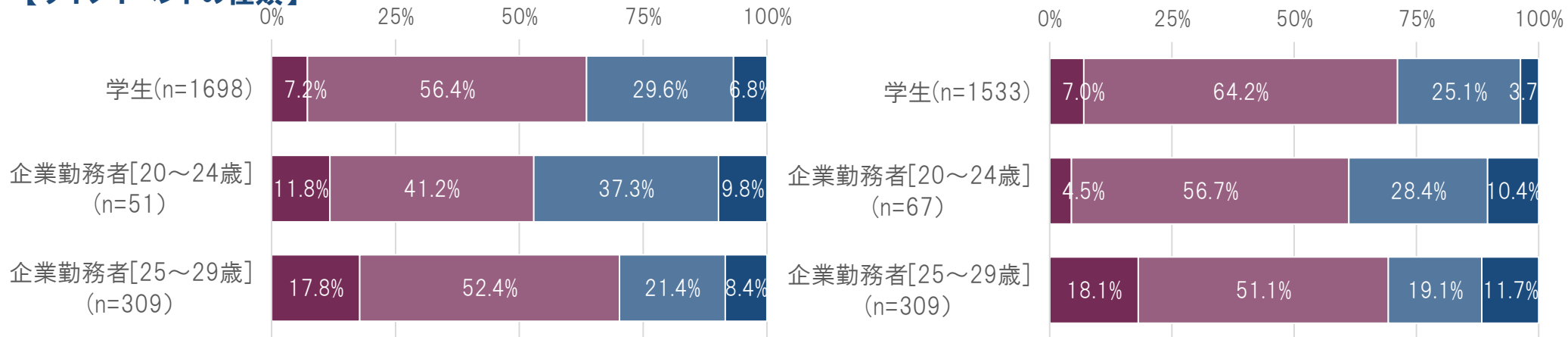
※企業勤務者は、当研究所にて2020年1月に実施した「金融リテラシー1万人調査」の20歳代のデータを元に分析。

# 生活設計に係る事項への理解①

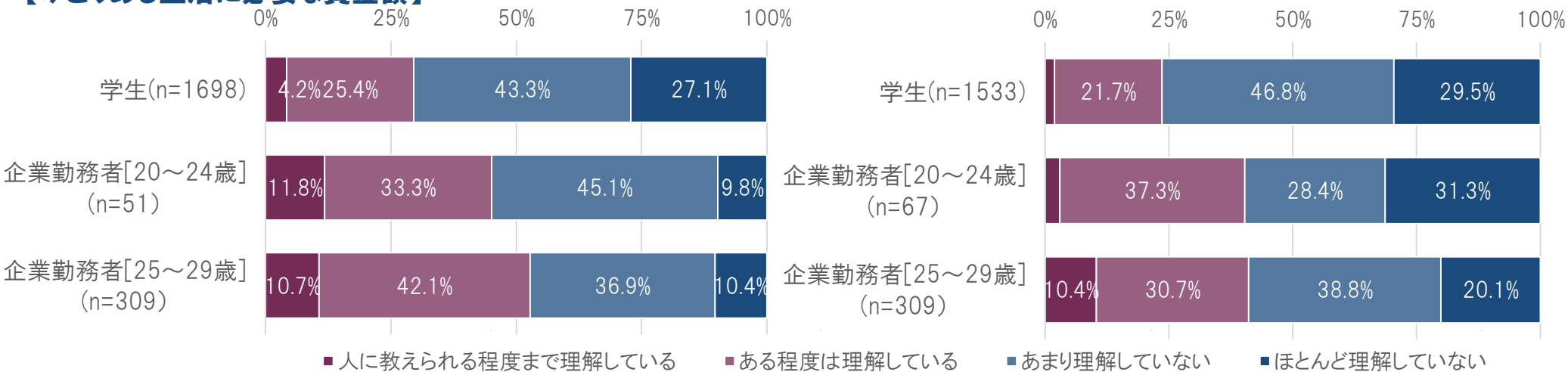
男性

女性

## 【ライフイベントの種類】



## 【ゆとりある生活に必要な資金額】



■ 人に教えられる程度まで理解している ■ ある程度は理解している ■ あまり理解していない ■ ほとんど理解していない

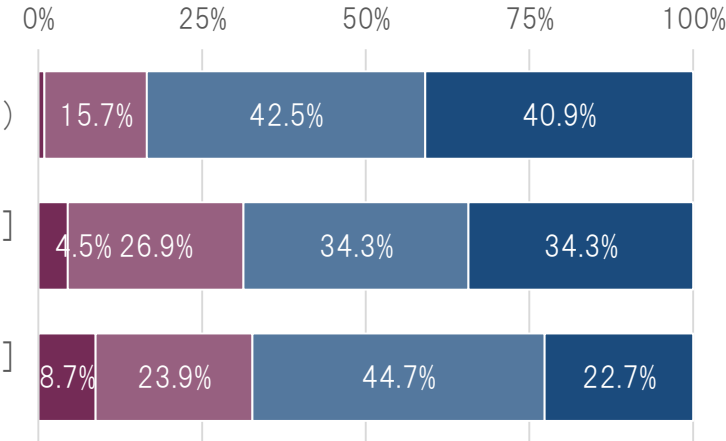
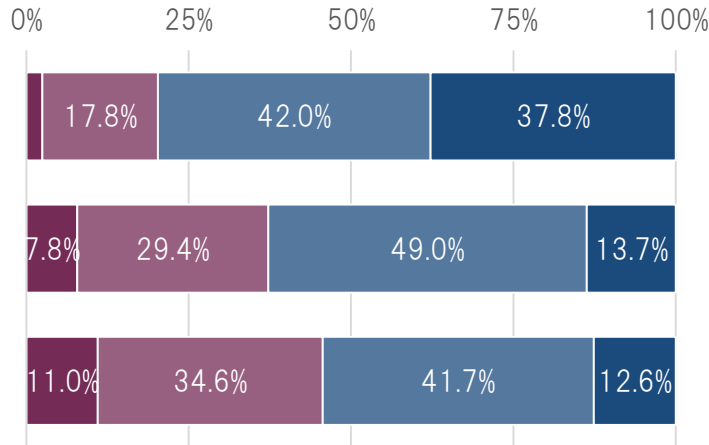
※企業勤務者は、当研究所にて2020年1月に実施した「金融リテラシー1万人調査」の20歳代のデータを元に分析。

# 生活設計に係る事項への理解②

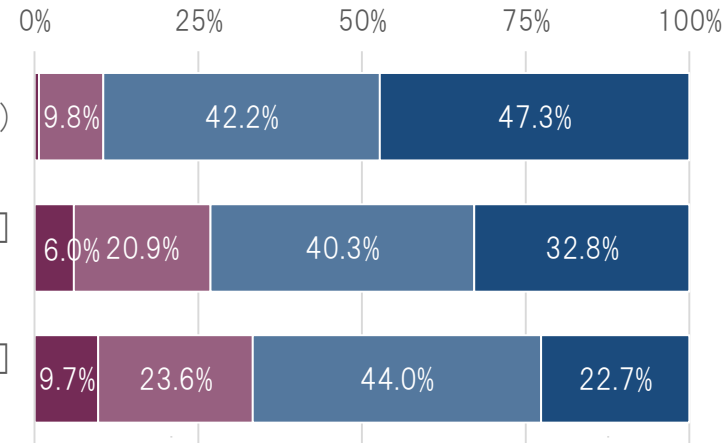
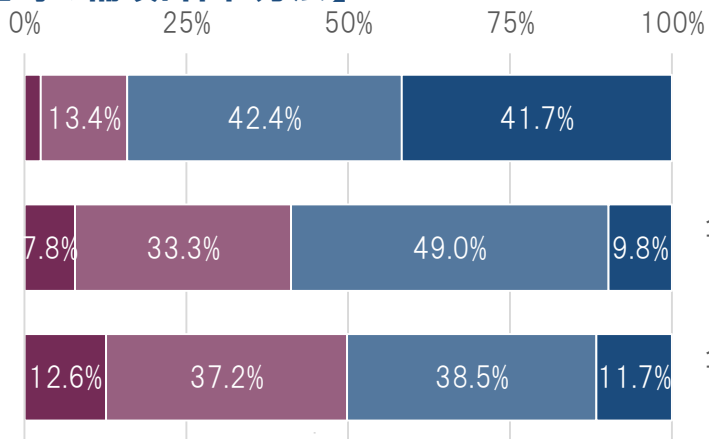
男性

女性

## 【退職金・年金額】



## 【老後の収支や不足時の補填計画・方法】



■ 人に教えられる程度まで理解している ■ ある程度は理解している ■ あまり理解していない ■ ほとんど理解していない

※企業勤務者は、当研究所にて2020年1月に実施した「金融リテラシー1万人調査」の20歳代のデータを元に分析。



## Appendix3:補足資料

# 投資実施までの5つのステップ

## 「投資実施までの5つのステップ」の調査

- 本調査では、投資実施までの段階を「5つのステップ」に区分し、各ステップに到達している人の比率を「残存率」と定義しています。本レポートでは、「投資実施までの5つのステップ」を活用し、分析しているページがあります。

1

投資未検討

投資をしようと思ったことはない、投資用口座の開設を検討したことはない

2

投資検討

投資用口座の開設を検討したことはあるが、実際には手続きをしなかった

3

口座開設  
手続き開始

投資用口座の開設の手続きを開始したが、途中で止めてしまった

4

口座開設  
手続き完了

手続きを完了して投資用口座を開設したが、投資しなかった（投資していない）

5

投資実施

開設した投資用口座で、実際に投資を実施したことがある

# 当研究所の定義する金融リテラシー

## 「金融リテラシー」の定義

- 当研究所では、金融庁が定義する「金融リテラシー」の概念を具現化するために、金融リテラシーを「金融商品や自身の金融資産・ライフプランについて、能動的に情報を収集し、自律的な(周りの情報に流されない)判断によって行動する力」と定義。

### 一般的な金融リテラシーの定義 (金融庁より)

「金融に関する健全な意思決定を行い、究極的には金融面での個人の良い暮らし(well-being)を達成するために必要な、金融に関する意識、知識、技術、態度及び行動の総体」

出所：金融庁2012年11月8日 伊藤宏一、「金融教育をめぐる国内外の状況と課題」

### 当研究所の定義する金融リテラシー\*

「金融リテラシー」とは、金融商品や自身の金融資産・ライフプランについて、能動的に情報を収集し、自律的な(周りの情報に流されない)判断によって行動する力。

\*：本調査における「金融リテラシー」の算出方法については、35頁～36頁ご参照

## 金融リテラシー指数得点の算出

- 三菱UFJ信託銀行では、2015年より、毎年定期的に、金融リテラシーの調査を目的として一般の消費者1万人にアンケート調査\*を実施してきた。当研究所では、この調査を承継し、「1万人アンケート」の結果から、100点満点で表現される金融リテラシー指数得点の算出式を定義している。

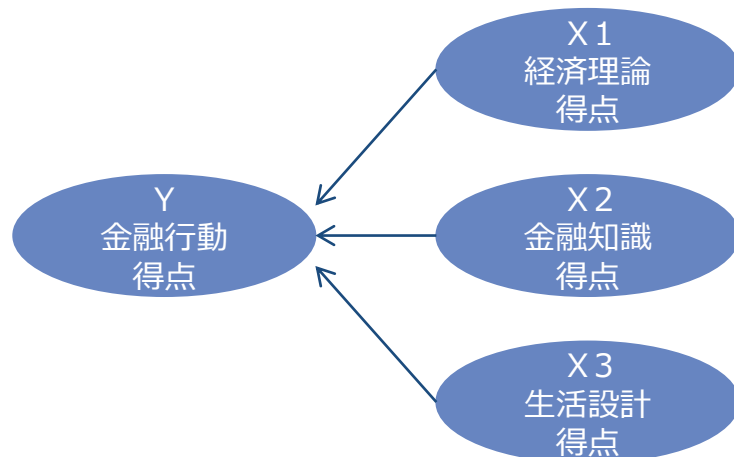
\*:「1万人アンケート」の対象者は、日本国内20歳以上のアンケートモニター。(企業勤務者:8500名、公務員:1000名、専業主婦:500名)

### 「1万人アンケート」結果を基にした重回帰式

「1万人アンケート」の結果から、金融行動に関する設問の得点を目的変数、金融リテラシー測定のための設問(経済理論・金融知識・生活設計の3要素)の得点を説明変数とし、金融行動に最も影響を与える配点を算出。

#### 目的変数

#### 説明変数



金融行動得点の重回帰式

$$Y = a_1x_1 + a_2x_2 + a_3x_3 + b_0$$

### 重回帰式からの指数算出方法

算出した重回帰式について、目的変数が最低点が0点、最高点が100点となるように調整した値を金融リテラシー指数(  $Y'$  )と定義。

#### 指数算出式

$$Y' = A_1x_1 + A_2x_2 + A_3x_3$$

- $x_1$ 、 $x_2$ 、 $x_3$ 、がそれぞれ18点満点
- $x_1$ 、 $x_2$ 、 $x_3$  がすべて0点の場合は0点、すべて満点の場合は100点になるように係数 $A_n$ を調整

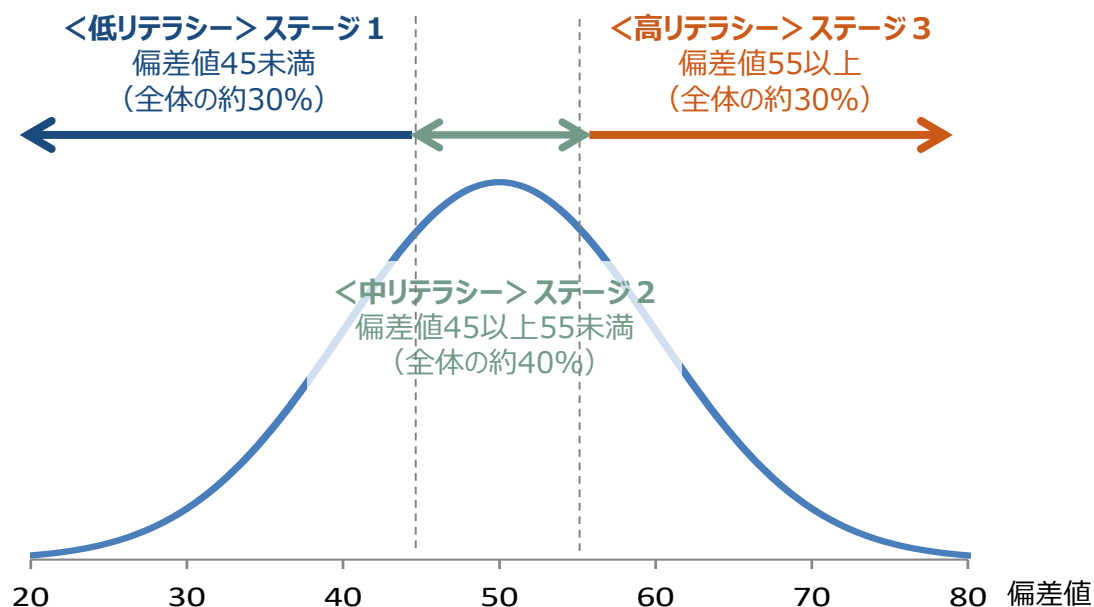
## 金融リテラシーステージの定義

- 100点満点で指数化された1万人の金融リテラシー指数得点の偏差値を基に、金融リテラシーのステージの境目となる指数得点を定義。
- 回答者の金融リテラシー指数得点に応じて、各回答者の金融リテラシーステージが1・2・3のいずれとなるか判定している。

### 金融リテラシーステージの定義

#### 金融リテラシー指数得点の偏差値による 金融リテラシーステージの定義

- ステージ1：偏差値45未満
- ステージ2：偏差値45以上55未満
- ステージ3：偏差値55以上



三菱UFJ信託銀行株式会社 資産形成推進部  
〒100-8212 東京都千代田区丸の内1-4-5

[www.tr.mufg.jp/shisan-ken/](http://www.tr.mufg.jp/shisan-ken/)

MUFG資産形成研究所は、三菱UFJ信託銀行が資産形成・資産運用に関する調査・研究等の活動を対外的に行う際の呼称です。